

発刊に あたって

人口減少社会を迎えた中、札幌市ではこれまでに経験したことのない時代の転換期を迎えようとしており、市内ものづくり企業を取り巻く経営環境も、人手不足や原材料費の高騰などにより、日々変化しております。

そうした状況のなか、札幌市では市内企業の皆様の新技術・新製品開発や製品の高付加価値化などを支援するため、様々な支援事業を行っております。

この冊子では、平成29年度に支援したものづくり関連の全12事業を紹介しております。

これらの成果事例を参考にいただき、市内ものづくり産業に携わる皆様の新たな事業の着想や既存事業の底上げにつなげていただければ幸いです。

※一部の事業は、平成28年度の事例を掲載しております。

- 03 札幌型ものづくり開発推進事業**
- 04 **株式会社テクノフェイス**
プロジェクトマッピング・キャリブレーションソフトウェアの開発
- 05 **株式会社ハイブリッジ**
金属部品の硬度・疲労強度・耐食性を高度に改善する表面改質技術:Scanning Cyclic Pressの実証試験機開発
- 06 **メディカルフォトニクス株式会社**
非侵襲血中濁度二次元画像散乱計測装置の開発
- 07 小規模企業向け製品開発・販路拡大支援事業**
- 08 **株式会社 Will-E**
道産自転車タクシー車両の開発
- 09 **株式会社白石ゴム製作所**
重要警備対策に適応する「寒地型伸縮式車両阻止柵」の開発
- 10 **五島冷熱株式会社**
ソーラー雪氷コンテナの動作検証事業
- 11 札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業**
- 12 **旭建材株式会社**
寒冷地においてより経済性に配慮し、地中熱活用による高効率暖冷房システム導入のための実証試験
- 13 **三栄工業株式会社**
路盤掘削工事を必要としない高効率簡易設置型ロードヒーティングシステムの技術開発
- 14 **株式会社エルコム**
第7回「ものづくり日本大賞」ものづくり地域貢献賞 受賞!
- 15 デザイン活用型製品開発支援事業**
- 16 **株式会社白石製作所**
売れる製品を作る製品開発チームの確立
- 17 観光商材開発支援事業**
- 18 **清水勲業株式会社**
海外客向け工芸土産品テーブルランプの開発
- 19 6次産業活性化推進事業**
- 20 **フードプランニングオフィス サレ・ド・シュクレ**
100%北海道産原料を使用した全国展開を目指す原料公開型のさっぽろスイーツの製造・販売事業
- 21 輸出仕様食品製造支援事業**
- 22 **株式会社ほんま**
月寒あんぱん 海外定番化促進に向けた輸出仕様専用箱開発
- 23 IT利活用促進事業費補助金**
- 24 **有限会社プロケア**
児童発達支援・放課後等デイサービス業務管理システム
- 25 IT産業海外展開支援事業ローカライズ支援補助金**
- 26 **株式会社インターパーク**
クラウドサービス サスケ リードのローカライズ
- 27 映像制作助成事業(海外プロモーション映像活用事業助成金)**
- 28 **特定非営利活動法人 Fit 北海道会議**
絵本のアニメーションDVD化事業
- 29 コンテンツ活用促進事業費補助金**
- 30 **株式会社ネクステック**
「ポジモ」のブランド化と広域啓蒙活動促進事業
- 31 テレワーク普及促進事業**
- 32 **株式会社Hand Made**
テレワークを活用した女性の就業促進
- 33 札幌市のその他支援制度(ものづくり関連)**

平成29年度 札幌型ものづくり開発推進事業

1 目的

札幌市の様々な産業をけん引する「重点分野」及び、札幌市産業全体の底上げが期待される「ものづくり分野」において、札幌市内の中小企業者等が行う新製品・新技術開発（既製品の改良を含む）の取り組みを支援することによって、札幌市経済の活性化を図ることを目的としています。

2 補助対象者

下記の要件をすべて満たす中小企業者・組合等

- (1) 札幌市内に本社を有していること
- (2) 設立後1年以上経過し、事業を継続して実施する見通しがあること
- (3) 事業を実施するための経営資源、人材等を有していること

3 補助対象事業

下記の分野における新製品・新技術開発（既製品の改良を含む）に関する取り組み

- (1) 食関連分野
- (2) 健康福祉・医療関連分野
- (3) 製造関連分野
- (4) IT関連分野

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額500万円

5 補助件数

6件

（平成29年度採択案件）

- ・新規重症インフルエンザ治療薬の試作品製造（株式会社エヌビー健康研究所）
- ・抗体創薬用ファージディスプレイ技術開発（株式会社イーベック）
- ・非侵襲血中濁度二次元画像散乱計測装置の開発（メディカルフォトンクス株式会社）
- ・自律型3DCG キャラクターライブシステムの開発（クリプトン・フューチャー・メディア株式会社）
- ・金属部品の硬度・疲労強度・耐食性を高度に改善する表面改質技術：
Scanning Cyclic Pressの実証試験機開発（株式会社ハイブリッジ）
- ・プロジェクションマッピング・キャリブレーションソフトウェアの開発（株式会社テクノフェイス）

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 旅費 ■ 報償費 ■ 原材料・消耗品費 ■ 人件費^{※1} ■ 通信・運搬費 ■ 機器リース費
- 機器購入費^{※2} ■ 施設及び設備等賃借料 ■ 外注費（調査・分析・加工等）
- その他本事業の遂行に必要と認められる経費

※1 人件費については補助対象経費総額の1/2以内かつ500万円を限度とする
（ただし、IT関連分野のみ2/3以内かつ650万円を限度とする）

※2 機器購入費については補助対象経費総額の2/3以内かつ650万円を限度とする

7 募集期間

平成29年4月10日～5月10日

8 申請の受付・問い合わせ

公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団） クラスター事業部

〒001-0021 札幌市北区北21条西12丁目 北海道大学構内 コラボほっかいどう

TEL:011-708-6526 URL:<http://www.noastec.jp>

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社テクノフェイス

プロジェクションマッピング・キャリブレーションソフトウェアの開発

- 所在地／札幌市中央区北1条西3丁目3番地
敷島北一条ビル6階
- TEL／011-242-6606 ●FAX／011-242-6607
- 代表者／代表取締役 石田 崇
- 設立／2002(平成14)年4月 ●従業員数／22名
- URL／http://www.technoface.co.jp

一人ひとりの“やりたいこと”を大切に、技術者の自由な発想を製品化する、北大発R&Dベンチャー企業。
IoTやAIなどのIT技術を駆使し、利用者目線の情報システムを提供する。
映像をもっと利便性の高い情報発信ツールへと進化させるため、配信・放映に関する新しいシステムを開発している。

場所を選ばないプロジェクションマッピングへ キャリブレーションソフトウェアで映像の「歪み」を解消

四角いものは四角く映す

プロジェクションマッピングとは、「プロジェクターを用いて物体や空間に映像を投影し立体的な演出を施す表現手法」という意味である。実は、投影する場所に合わせて歪みを補正する作業を人手で行っているため、莫大な時間とコストがかかっている。

懐中電灯で床を照らすとき、真上から照らすのと斜め上から照らすのでは光の広がり方が変わる。これが歪みの原因。プロジェクターから斜め方向に投影された映像は、伸びて元の形を失う。例えば、正方形や円を投影すると、台形や楕円形になるのだ。この「歪み」を補正(キャリブレーション)すれば、街中のいたるところをスクリーンにできる。しかも、PCにソフトウェアを導入するだけでこの技術が利用できるなら、汎用性も高まるはず。

ニーズに応じて市場を開拓

開発当初はイベント等への導入を考えていたが、このソフトは全く別の用途で脚光を浴びることになった。それは、現在、床面に直接ペイントしたり、シールを貼ったりしている通路の誘導表示。映像なら流す内容を変更するだけで簡単に表示を切り替えられ、貼り換えなどのコストをかけずに、たくさんの情報を提供できる。具体的な要望を受けて完成したプロトタイプは使い方も簡単。PCにこのソフト

をインストールしプロジェクターと接続する。床面で歪んでいる映像をユーザーが手元のコントローラーで動かして、歪みのない形にする。一旦この作業を終えれば、後は、好きな動画や静止画をPCで通常に再生するだけの、とてもユーザー思いの製品だ。

今回は、床面という2次元に対して開発が進んだソフトだが、今後は部屋の隅のような3次元の場所、ドームのような球面などにも応用して需要の拡大を図る。将来的には、どんな状況でも完全に自動補正できるよう、AIの導入を目指す予定だ。

映像×AIで 今までにないものを創造したい

前年、同支援を受けた「多拠点型デジタルサイネージ制御ソフトウェア」は、その後導入先が決定し、今回の「プロジェクションマッピング・キャリブレーションソフトウェア」も製品化が進んでいます。中小企業にとって、資金面での支援は大いに助かりますので、北海道札幌ブランドの製品化も進むのではないかと考えています。



ソリューション
テクノロジー事業部
小林 隆行

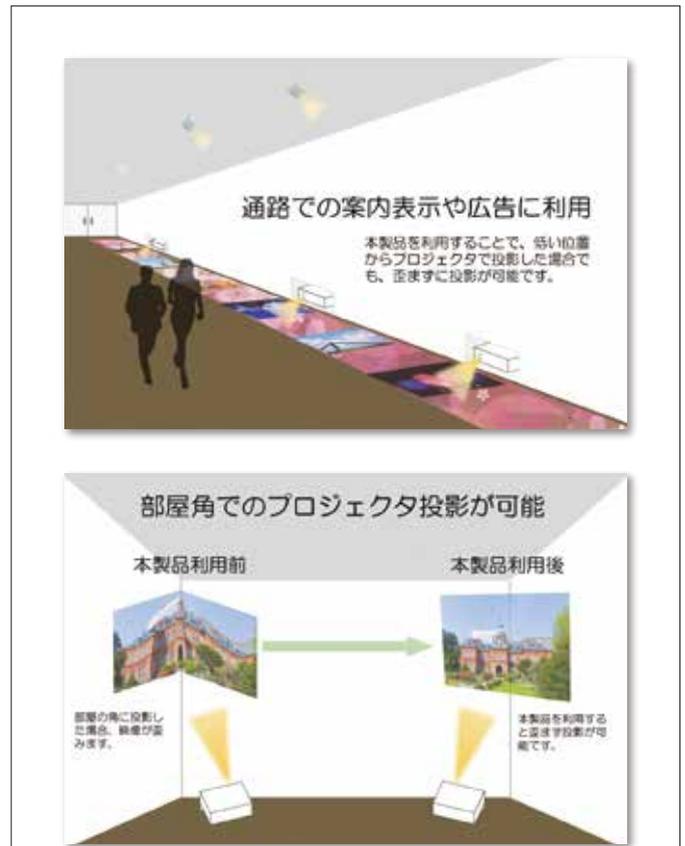
補正作業はゲームコントローラーで簡単に



映像の上を歩く〜投影とは思えないほど影が映りにくい



活用イメージ



株式会社ハイブリッジ

金属部品の硬度・疲労強度・耐食性を高度に改善する表面改質技術：
Scanning Cyclic Pressの実証試験機開発

- 所在地／札幌市北区北23条西3丁目2番35号
AMSアベニュー24 101号室
- TEL／011-769-9170 ●FAX／011-769-9172
- 代表者／代表取締役 和島 達希
- 設立／2013(平成25)年5月 ●従業員数／2名
- URL／<http://hybridge.co.jp/>

研究に必要な装置、部品などの理化学機器の製造と販売、メンテナンスを提供する特殊・特注装置のスペシャリスト。北海道から発信できるモノ・技術を求めながら、道内外の多くの研究機関を支えている。偶然から生まれた科学を“見える価値”にすべく、新たな装置を開発した。

軽い、硬い、傷まない 表面改質技術で、金属はさらに進化する

研究から産業へ

大学の研究室では、たくさんの成功と失敗が繰り返され、時に不思議な現象が発見される。この「不思議」は科学の種となり、大切に育てると「新技術」という実が生る。数年前、北海道大学大学院中村研究室が、「金属を弱い力で叩き続けると、金属表面が硬くなり、強度が増す」という現象を発見。そこで、ハイブリッジではこの現象を応用し、金属材料の硬度・疲労強度・耐食性を高度に改善できる装置の開発を始めた。

この装置には、「Scanning Cyclic Press(材料を動かしながら繰り返し叩く)」という方法を使用する。水平移動または回転している金属材料を、上方から非常に弱い力で叩き続ける。材料の表面全体が均一に叩かれ、その回数は1,000万回程度。こうして鍛えられた金属の表面は、微細な構造へと変化する。それはまるで、荒れていた肌のきめが細くなり、健康な肌になったよう。硬く丈夫になるだけでなく、緻密な表面は外部からの侵入物を防ぐバリアとなり、腐食にも強くなる。

夢が広がる実用化

今回の開発事業では、材料を叩く部分(インデンタ)の動力となる装置や、移動させる土台(走査ステージ)を最適化した試験機を

製作した。動力として加振器を採用し、わずか467秒で140万回(≒3000回/秒)叩いてアルミ合金を硬度化することに成功するなど、予想以上の成果を上げている。今後も、金属の種類に合わせた材料の移動速度、叩く回数や速度などを評価し、実用化に向けた様々な実証試験を進める。装置の完成後は、自動車部品メーカーなどに販路を開拓する予定。丈夫で腐食に強く軽い素材をシャフトやボディに利用すれば、車の燃費も良くなるだろう。その他にも、「金属」でできているもの、「軽くて丈夫な材料」が必要なものに幅広く応用でき、眼鏡フレームからロケットまで、使い方は無限に広がりそうだ。

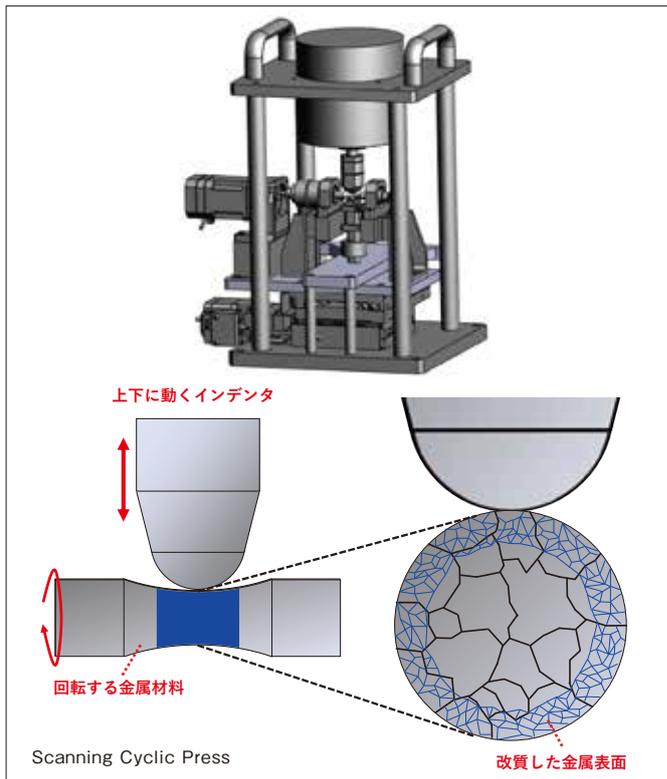
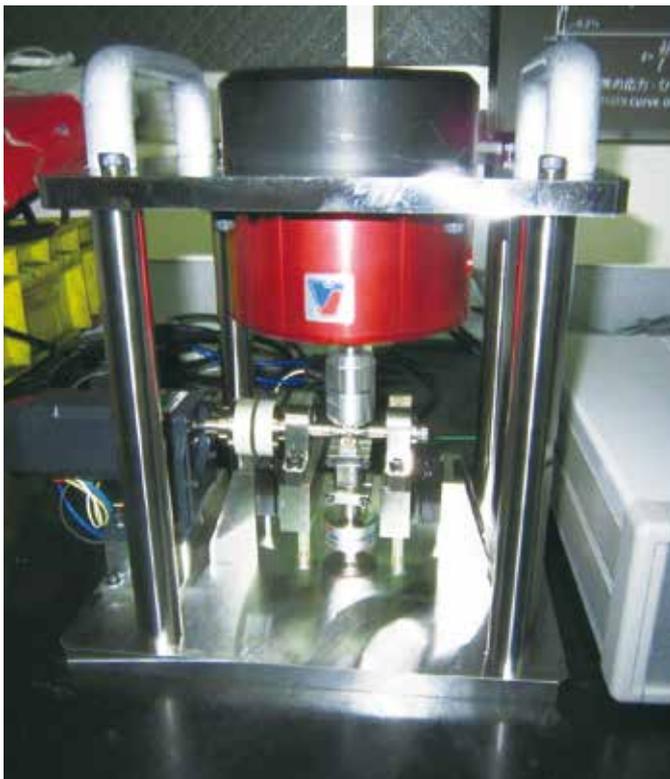
産業と科学を支える装置で 北海道の工業の発展に 貢献したい

開発後のアウトプットが見えづらい分野なので、採択されるのは難しいと思っていましたが、支援を受けることができて助かりました。また、この支援事業には中間検査があり、事業の途中でも進捗状況などを確認して、しっかりと管理できたおかげで、最終報告もスムーズに終了できそうなので、良いシステムだと思います。



代表取締役
和島 達希

表面改質装置



メディカルフォトニクス株式会社

非侵襲血中濁度二次元画像散乱計測装置の開発

- 所在地／札幌市北区北21条西12丁目
コラボ北海道Aルーム
- TEL・FAX／011-700-0202
- 代表者／代表取締役 CEO 飯永 一也
- 設立／2015(平成27)年2月 ●従業員数／8名
- URL／<https://www.med-photonics.com/>

採血をせずに血中の脂質を測定する装置の開発を行う、北大発認定ベンチャー企業。

「肌に当てるだけ」で血液の様子を観察できれば、病気の診断や予防の役に立つ。

装置を小型で使いやすくすれば、広く普及させることができるため、製品化の最終章に向かって技術の改良に臨んだ。

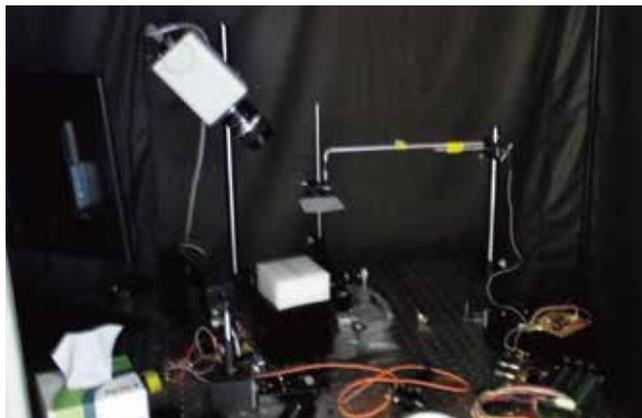
光を使って血液検査を簡単・便利に 非侵襲血中濁度二次元画像散乱計測装置

「血、脂っぽい？」を光で診断

光を血中に通すと、血球やその他のいろいろな粒子にぶつかって散乱するが、その様子は粒子の種類や量によって異なる。この原理を利用して生み出された、北海道大学大学院情報科学研究科清水教授の非侵襲血液計測技術を製品化すべく、メディカルフォトニクスでは装置の開発に取り組んできた。非侵襲とは、針などで体を傷つけないということ。

この装置は「腕の静脈の真上にLEDを当てると、この光が血中の脂質(中性脂肪)にぶつかり散乱する。この散乱した光をレンズで捉えコンピュータで解析して、脂質の濃度を測定する」という仕組みで高脂血症の診断に役立つ。今回の事業では、特に光をレンズで捉える部分の改良に力を注いだ。初期のモデルでは、この部分が一直線状だったため、静脈にピッタリ合わせて使用しなくてはならなかったが、これがなかなか難しかった。そこで一直線状を平面状に改良して面積を広くし、使用しやすくした。難関だったのは、この改良によりレンズが捉える情報量が増え、有用なデータのふり分けが必要になったこと。レンズで得た情報を画像化するのだが、画像が不鮮明となり読み取りにくかった。

社内に作った暗室で実験



装置を調整



一歩一歩、いつでも使える医療機器へ

様々な問題を乗り越えて販売の道筋が見えてきた今、製品化に向け、パッケージ(外観)と測定結果を表示するユーザーインターフェイスを整えており、ユーザーは測定結果をスマートフォンで見られるようになる。まずは、研究用に販売し、体格や体質などの観点からこの装置が有用になるのはどんな人かを探っていく予定。その後は、医療機関で病気の予防・早期発見、健康管理などに活用してもらえるように保険収載を目指す。いずれは、一家に一台あるウェアラブル機器となって、一人ひとりの健康管理に役立ってほしいと願っている。

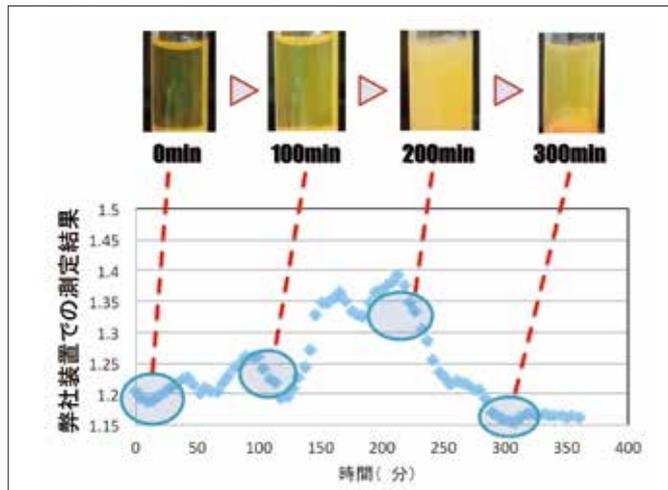
「人を診ることの難しさ」 個体差を超えて 人々の健康を見守りたい

光を使った血液測定技術(パルスオキシメーター)は、1974年、日本で誕生し、今では世界中で使用されています。私たちも日本だけでなく、世界で活用される製品を目指したいと思います。薬剤同様、医療機器の開発には莫大な資金が必要です。このような補助金による支援のおかげでスムーズに事業が進み、感謝しております。



代表取締役 CEO
飯永 一也

装置の測定結果から見た食後の高脂血症



測定時のイメージ



平成29年度 小規模企業向け製品開発・販路拡大支援事業

1 目的

札幌市内の小規模企業が行う新製品・新技術開発や開発の前段階の取り組み（試験、試作、調査等）、後段階の取り組み（販路開拓・拡大）を支援することによって、小規模企業の付加価値向上を促進するとともに、市内ものづくり産業の振興を図ることを目的としています。

2 補助対象者

下記の要件をすべて満たす小規模企業者

- (1) 札幌市内に本社を有していること
- (2) 設立後1年以上経過し、事業を継続して実施する見通しがあること
- (3) 事業を実施するための経営資源、人材等を有していること

【小規模企業とは】

業 種	常時使用する従業員
(1) 製造業、建設業、運輸業、 その他の業種（(2)を除く）	20人以下
(2)卸売業、サービス業、小売業	5人以下

3 補助対象事業

「金属・機械」、「食」や「環境・エネルギー」、「健康福祉・医療」、「IT」などの“ものづくり”に関する以下の何れかの取り組み

- 開発の前段階の取り組み（試験、試作、調査等）
- 新製品・新技術開発の取り組み
- 開発の後段階の取り組み（販路開拓・拡大）

4 補助金額

補助対象経費の2/3以内、上限額200万円

5 補助件数

3件程度

（平成29年度採択案件）

- ・道産自転車タクシー車両の開発（株式会社Will-E）
- ・（仮称）ソーラー雪氷コンテナの動作検証事業（五島冷熱株式会社）
- ・手持ち式回転ドリルによる、コンクリート乾式穿孔時の切削粉塵を回収する集塵機能付きシャンクと専用乾式ダイヤモンドコアビットの開発（株式会社コバルテック）
- ・重要警備対策に適應する「寒地型伸縮式車両阻止柵」の開発（株式会社白石ゴム製作所）
- ・高耐食性コーティング皮膜の低コスト施工技術の開発と販路拡大に関する製品開発（株式会社ディ・ビー・シー・システム研究所）

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 人件費^{※1}
- 旅費
- 原材料・消耗品費
- 通信・運搬費
- 機器リース費
- 機器購入費^{※2}
- 施設及び設備等賃借料
- 外注費（調査・分析・加工等）
- 出展費
- その他本事業の遂行に必要と認められる経費

※1 人件費については補助対象経費総額の1/2以内かつ150万円を限度とする

※2 機器購入費については補助対象経費総額の2/3以内かつ200万円を限度とする

7 募集期間

平成29年6月5日～7月20日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 産業企画推進部

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1

TEL:011-820-2062 URL:<http://www.sec.or.jp/other/2009.html>

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社 Will-E

道産自転車タクシー車両の開発

- 所在地／札幌市白石区川下2113-150
- TEL／011-376-5316 ●FAX／011-376-5317
- 代表者／代表取締役 根本 英希
- 設立／2003(平成15)年1月 ●従業員数／3名
- URL／http://www.will-e.com/

「あったらいいなあ～」に応じて、意思・志(Will)を持った技術(Engineering)を提供することを目指すものづくり支援企業。
"想像"を"創造"するサービスで、実用的、独創的な試作品を製作する。
未来の住みよい暮らしに想いを馳せ、新しい街づくりを見据えた次世代モビリティの開発を進める。

このままでいいの？ 道産自転車タクシーで街づくりの未来を切り拓こう！

想像しよう、今できること

自動車中心の生活を想定してつくられた「今の街」は、未来に向かってどう変化したらよいか？どうあるべきか？をモビリティの視点から考え活動しようと、2016年、「イモビープロジェクト」が始動した。現在、このプロジェクトの柱になっているのが、自転車タクシーの開発。燃料を必要とせず、狭い道路や通路でも安全に走行でき、運動にもなる優れたものである。ボディで囲えば、天候の心配もなくなり、荷物も積める。十分な安定性を確保すれば、高齢者でも安心して一人で外出できるようになる。実は、このような乗り物は既にあり、札幌市内で見かけることもあるだろう。しかし、それらは外国産であるため、購入時にもメンテナンスにもコストがかかりすぎていた。道産の自転車タクシーができれば、価格が抑えられて普及が進むのではと考えた。さらに、市内で大量に回収される廃棄自転車を活用することで、製作費用の軽減と資源の再利用も実現させることができる。

具現化への道のり

開発中は、常に「次世代社会」が想像された。現在を生きる自分達がつくるものが、本当に未来の人々の役に立てるのか？時空を超えた壮大なテーマを考えながら、一つひとつ手作業で3輪自転車

が組みあがっていく。今回の試作車は、本体は一人乗りで、定員2名の客車を連結できるようになっている。完成後は、イモビープロジェクトのメンバーである特定NPO法人エコ・モビリティサッポロと協働し、真駒内地区での試験運用を目指す。主に高齢者の買い物や通院など、地区内の移動手段としての実用性や運用の仕方などを検証する予定だ。

モビリティには乗り物の意味の他に、流動性という意味もある。低負荷で簡便な乗り物である自転車タクシーは、人や物がもっとスマートに流れる時代への第一歩となる。

難問を解くのは喜び 自らの既成概念を打ち破ることが 永遠の課題

この支援制度では、人件費も補助の対象となるので、人手が重要となる試作品の製作をする上でとても助かりました。また、さっぽろ産業振興財団が開催する推進会議で、事業の進め方なども相談でき、悩みや不安を解消しながら安心して開発を進めることができました。小規模事業者用にいろいろと考えられた制度だと思います。

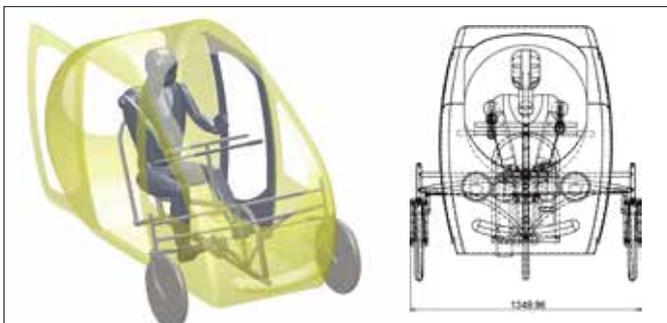


代表取締役
根本 英希

プロジェクトの主役 イモビー



自転車タクシーの運転席



廃棄自転車を使った3輪自転車の骨格



株式会社白石ゴム製作所

重要警備対策に適應する「寒地型伸縮式車両阻止柵」の開発

- 所在地／札幌市白石区北郷4条4丁目20-17
- TEL／011-872-3771 ●FAX／011-875-6343
- 代表者／代表取締役会長 千葉 武雄
- 設立／1977(昭和52)年1月 ●従業員数／19名
- URL／http://www.rubber.co.jp

試作、少量の部品製作を得意とする手加工のゴム屋。

働く環境を大切に社風が、従業員のモチベーションや発想力を高め、その仕事ぶりは分野を問わず多くの企業から信頼されている。とある企業から寄せられた「こんな商品が欲しい」という声に応え、従業員が一丸となって製品開発に取り組んだ。

国際的なイベントに不可欠となったテロ対策 関係機関の要望をすべて叶える「車両阻止柵」を製作したい!

チャンスを掴み、アイデアで勝負

世界的に車両を使用したテロ事件が増え、札幌市内で開催されるイベントでも、「どうやって車両の侵入を阻止するか?」が大きな課題となっている。そんな中、札幌市内で警備用品などを扱っている企業から、「確実に車両を止められる新しい阻止柵を作れないか」という相談が寄せられた。早速アイデアを形にしたものを道警に見てもらったものの、結果は不発。しかし、どんなものが理想的なのかを知ることができた。それは、容易に移動できる簡易的な仕組みで道路を塞ぎ、必要な時はすぐに道路を開通できるものだった。これを受け、試作品第1号を製作。車両が蛇腹式のフェンスに衝突すると、フェンスが車軸下に巻き込まれて駆動が止まる設計とした。ところが試験では、時速60kmで走行する車両がフェンスをなぎ倒し、狙い通りにはいかなかった。

新たな仕組みで挑む

試作品第1号で得た教訓が今後の課題である。すでに設計を終えた試作品第2号は、侵入してきた車両をトラップにはめ、2カ所のツメで車両を捕まえる仕組み。柵1台の重量は約300kgだが、設置や移動の際は分解でき、キャスターも利用できる。この2号機の試験のポイントは、車両の重量と制動距離の関係を明らかにすること。

また、柵の底面に用いる適切な素材も検討する。アスファルトと圧雪時、それぞれに対し最も摩擦抵抗が高い素材が必要だからだ。

試行錯誤を繰り返し、一步一步、製品化に近づいている日本初の車両阻止柵は、2020年東京オリンピックでの市場テストを狙っている。その後、警察、NEXCO、空港、自衛隊などそれぞれのニーズに合わせた改造をして市場に波及させる、というビジネスプランである。国際的なイベントも多数開催される札幌で、人々の安全を確保するために活用される日が、近い将来やって来るだろう。

当社の生き方 "社会が求めている 他で作っていないものを作る"

札幌の企業として、札幌市内で役立ててもらった製品を開発するために、札幌市の補助金を活用したいと思いました。支援事業を受けたことにより、他の機関からも注目されています。今回試作した製品が近々完成品となり、雪まつりやYOSAKOIソーラン祭りなどで活用され、安全なイベント運営に寄与できることを願っています。

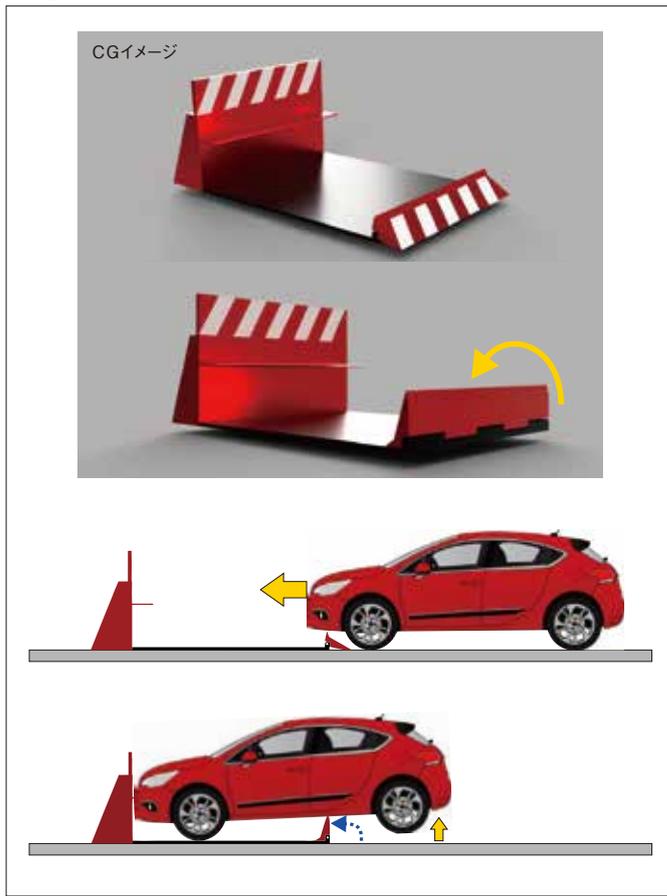


代表取締役会長
千葉 武雄

試作1号機の試験の様子



試作2号機のイメージ図



五島冷熱株式会社

ソーラー雪氷コンテナの動作検証事業

- 所在地／札幌市白石区中央1条5丁目6番14号
- TEL／011-821-4415 ●FAX／011-821-4415
- 代表者／代表取締役社長 五島 秀
- 設立／1967(昭和42)年10月 ●従業員数／13名
- URL／http://goshima.jp

創業から50年、札幌を中心に北海道内のコールドチェーン物流を支える冷凍冷蔵設備のトータルエンジニア。豊富な経験とアイデア、チャレンジ精神から生まれる“自然環境と共生する冷熱技術”で、環境ソリューションカンパニーとしても社会に貢献することを目指している。

太陽と雪の力で外部電力ゼロの「ソーラー雪氷コンテナ」 動作検証事業から市場導入へ

北海道の地の利を活用し、北海道の基幹産業を支える

以前より取り組んでいるNPO法人雪氷環境プロジェクトの提案で、雪を詰めたコンテナの中で農産物を冷やす設備の開発を目指したが、使用した雪が融けてなくなってしまい、継続的に使用することが難しかった。そこで、太陽光発電によって冷却に必要なエネルギーを補うことを発案。ソーラーパネルの発電力が低下する曇りや雨の日には雪の力で冷却し、気温が高く雪が融けやすい時はソーラーパネルが活躍するという、ハイブリッド方式を採用した。こうして、1年を通じて商用電源が不要で、庫内を1℃に保てる屋外設置型冷蔵倉庫が誕生した。

システムのモニタリングから開かれた展望

初秋から始められた動作検証では、冷却システムの運転率、雪の融解速度、庫内の温度変化についてのデータを集めて保冷性能を確認し、非積雪期間に必要な発電量と蓄電池容量の最適化について検討。この結果、重要なポイントが見えてきた。まず、設備を大幅に向上させるための複数の改良点が明確になった。特に、BMUシステム(バッテリーマネジメント機能付充電コントローラー)の開発は、難しい技術ではあるが、汎用性を高め、設備を大型化するには欠かせないので、チャレンジする価値が高い。また、外部気温が

十分に低い積雪期には、雪の力だけで冷却でき、太陽光発電による電力が他の用途にも使えることが分かった。電力は100Vコンセントで出力できるので、商用電源が得られない場所などで活用の幅が広がりそうだ。

製品の信頼性と将来性を証明する動作検証の様々なデータによって、ソーラー雪氷コンテナは開発中であるにもかかわらず、多くの注目を集めている。設備の改良も順調に進み市場導入が目前となった今、すでに、国内だけでなく海外からも引き合いがあり、販路拡大の道が拓かれている。

エコロジー&エコノミーな 技術革新で 未来の社会の一助に

この支援事業がきっかけとなり、様々な可能性が広がりました。他団体からも事業支援のご紹介や展示会の参加案内をいただいたり、マスコミに取り上げていただいたりと、開発を進めるだけでなく、開発した技術を拡散するチャンスも増えました。今後もこのような補助制度によって札幌の「ものづくり」が促進されるのではないかと思います。



代表取締役社長
五島 秀

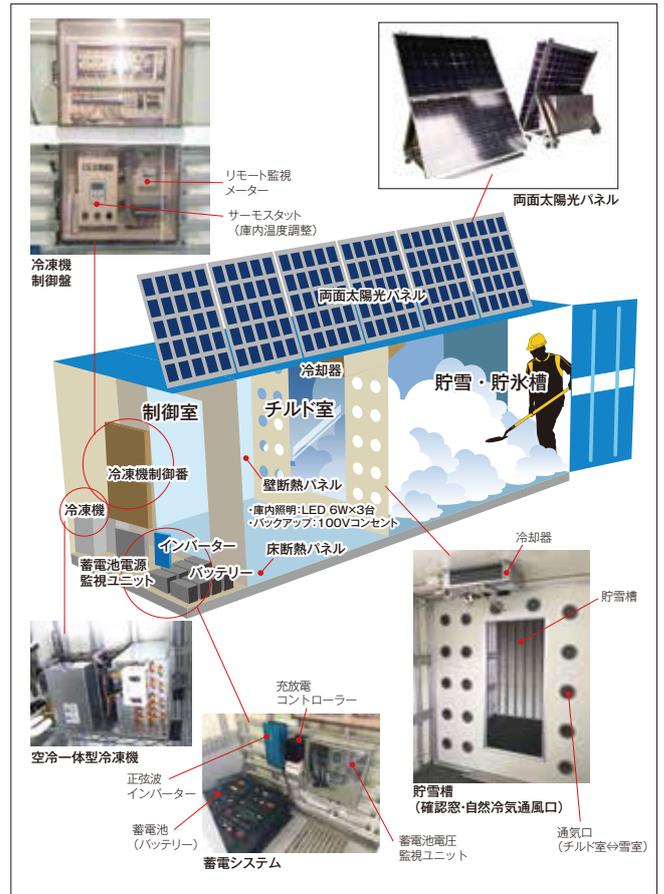
ソーラー雪氷コンテナの試作品



環境に配慮し、社屋にもソーラー発電や融雪電力、雪冷房を採用



コンテナの構造



平成29年度 札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業

1 目的

積雪寒冷地でありながら190万人以上の人口を有する札幌市の特色を活かした環境・エネルギー関連産業の活性化を目的としています。

2 補助対象者

- ・市内企業
- ・市内企業を代表とした市内外企業や大学等研究機関とのコンソーシアム

3 補助対象事業

環境・エネルギー分野(省エネルギー、創エネルギー、蓄エネルギー、エネルギーマネジメント及びそれらを組み合わせたもの)における製品・技術・システムの開発及び実証実験の取り組み

4 補助金額

補助対象経費の2/3以内、上限額1,000万円

5 補助件数

5件

(平成29年度採択案件)

- ・路盤掘削工事を必要としない高効率簡易設置型ロードヒーティングシステムの技術開発(三栄工業株式会社)
- ・寒冷地においてより経済性に配慮し、地中熱活用による高効率暖冷房システム導入のための実証試験(旭建材株式会社ほか1社)
- ・ドイツ・ペンダー社の高効率遠赤外線暖房システムの日本国内での販売に向けた実証試験(北斗重工株式会社)
- ・寒冷地型高断熱高気密住宅用空調システムによる自然エネルギー利用型省エネルギー技術の開発(環境エネルギーコンソーシアム(株式会社エコテックなど))
- ・家畜糞尿利用バイオガスによる燃料電池発電システムの開発(株式会社セテック)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 旅費 ■報償費 ■原材料・消耗品費 ■人件費^{※1} ■通信・運搬費 ■機器装置等購入費^{※2}
- 機器装置等賃借料 ■外注費(調査・分析・加工等) ■その他本事業の遂行に必要と認められる経費

※1 人件費については補助額の1/2以内かつ500万円を限度とする

※2 機器購入費については対象経費の2/3以内かつ650万円を限度とする

7 募集期間

平成29年5月1日～6月9日

8 申請の受付・問い合わせ

公益財団法人北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団) クラスター事業部
〒001-0021 札幌市北区北21条西12丁目 北海道大学構内 コラボほっかいどう
TEL:011-708-6526 URL:<http://www.noastec.jp>

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

旭建材株式会社

寒冷地においてより経済性に配慮し、
地中熱活用による高効率暖冷房システム導入のための実証試験

- 所在地／札幌市白石区東札幌3条1丁目2-22
- TEL／011-811-3227 ●FAX／011-811-3034
- 代表者／代表取締役 寺江 伸一郎
- 設立／1960(昭和35)年5月 ●従業員数／20名
- URL／http://www.asahi-hkl.com/

建材だけでなく、建築資材も含めた「住」に係る材料を幅広く販売。
将来的な大規模地震の発生が予測されるなか、安心して快適な住環境を提供したいと願っていた。そこで、揺れに強いだけでなく、自然エネルギーを活用できる住宅の普及を図るため、株式会社コロナとのコンソーシアムによる実証試験に取り組んだ。

住宅を支える杭に採熱管を採用 地中熱を活用した高効率暖冷房システムを実現

販売したい商品、「プラスワン」で訴求力を

基礎にコンクリート杭を使用している住宅が多い北海道で、耐震性に優れ、地盤変化などによる住宅の傾きを防止できる鋼管杭の普及を目指していた。しかし、どんなに優れた杭を使用しても、一旦住宅が完成すれば基礎部分を見ることはできないので、地震が発生しない限り性能を実感することも難しい。そのため、住宅メーカーや建主への訴求力が欠けていた。良さを伝える「プラスワン」が必要だと考え、鋼管杭の空洞を活かして地中熱を利用する試みが始まった。

住宅を新築する際、基礎杭として鋼管杭を地中に打ち込む。その中に採熱管を入れ、採熱管は土間と呼ばれる部分のさらに下に平面的に配管する。この仕組みによって得た熱を、地中熱ヒートポンプを介して暖房に利用する。

熱エネルギーを循環させ、「熱枯れ」を防ぐ

暖房を24時間使用し続けるエリアでは、地中熱をすべて使いきってしまう「熱枯れ」の恐れがある。そこで、室温が高いときには、室内から回収した熱を採熱管に送り熱を地中に戻すシステムにした。これで、室内の冷房と地中の蓄熱を同時に行える。さらに、バックアップとして空気熱ヒートポンプも設置し、熱枯れの問題を完全に

解消した。今回の実証試験は一般家庭で行うことができたので、冷暖房の快適性の他に経済性も確認できた。すべて電力で動作するが、通常のオール電化住宅に比べて、冷暖房にかかる電気代が1/3～1/4になる見込み。住宅の性能や設備を工夫すれば、さらなるコスト削減も期待できる。

国が30年度から実施する「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)化等による住宅における低炭素化促進事業」では、先進的な再エネ熱利用技術を活用した戸建住宅を建築する際に補助金が交付されるので、これに対応した市場開拓を目指している。

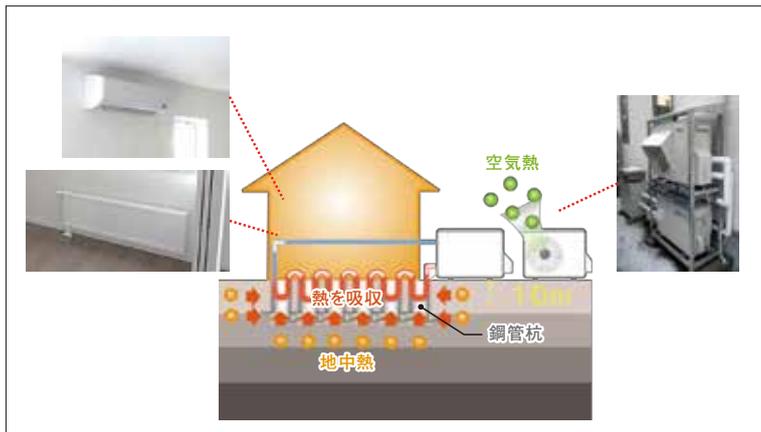
省エネで環境に優しい商品 社会と時代の 様々なニーズに応えたい

今回の実証試験内容は、技術的にも金銭的にも当社単独では困難でしたが、この支援事業は補助金額・補助率が良く、コンソーシアムを構成しての事業実施も認められていたことから、2社が協力して大きな成果が得られました。複数の住宅から得られたデータにより正式販売の見込みとなり、大変感謝しています。



取締役営業部長
桑原 憲司

システムの概要



鋼管杭から伸びる採熱管



地中に鋼管杭を打ち込む



三栄工業株式会社

路盤掘削工事を必要としない
高効率簡易設置型ロードヒーティングシステムの技術開発

- 所在地／札幌市豊平区豊平2条11丁目1-20
- TEL／011-822-3772 ●FAX／011-822-3777
- 代表者／代表取締役 菅原 仁
- 設立／1987(昭和62)年11月 ●従業員数／5名
- URL／http://roadheating.com/

会社創設以来、ランニングコスト・ゼロのロードヒーティングを求めて、製品の改善や新技術の開発に打ち込んでいる。除雪を楽にすることでお金も時間も節約でき、雪国の生活がさらに快適になることを願って、地熱を利用したローコスト融雪システムの製品化を目指した。

小面積での設置や短期間の利用も可能にする 高効率簡易設置型パネルロードヒーティングシステム

テーマは「昨年よりも低コスト」

三栄工業の主力商品はステンレスパワーヒーティングシステム。融雪に必要なエネルギーが従来型の約半分となり、設置後にかかる費用が大幅に軽減され、ユーザーからの評価も高いが、ランニングコストがゼロになったわけではない。もっともっとお客様の負担を減らしたいとの思いから、地熱を活用し、特製の簡易設置型パネルを温めて融雪するシステムの実用化に着手。このシステムでは、地中約70mまで打ち込んだ採熱用UチューブとSUS管(採熱性能向上のため)に不凍液を通し、地熱から熱を得た不凍液が地面に並べられた簡易設置型パネルの内部を循環し、温まったパネルが雪を融かす。今回は簡易設置型パネルに鉄を採用し、パネル表面は滑り止めと鉄の劣化防止の役割を果たす塗料で被覆した。

導入範囲の広さに、大きな期待

2～3月に行った試験では、予想通りの良好な結果が得られ、融雪に必要な温度の最低値が2～4℃であることも発見した。低温で効果があるなら、さらにコストを削減できる見込みがある。また、簡易設置型パネルは乗用車程度の重量には充分耐えられるため、一般家庭の駐車スペースなどに問題なく設置できる。小型の簡易設置型パネルは持ち運びが簡単で、地熱以外の熱源も利用できる

ため設置場所の制限がほとんどなく、階段などの狭いスペース、イベント時などの通路でも活躍しそうだ。リースできるロードヒーティングとしても期待が高まる。

今後は、タンクローリーなどの大型車両にも耐えられる金属パネルの設計や、融雪面積に応じた採熱管本数の最適化などを進めるが、目下の課題は価格。技術開発にかかった費用は販売価格に影響する。一般ユーザーに満足してもらえる価格と技術の適正バランスを見極めるのが難しい。とはいえ、今回開発したロードヒーティングの導入を待ちわびている顧客も多く、商品化が急がれる。

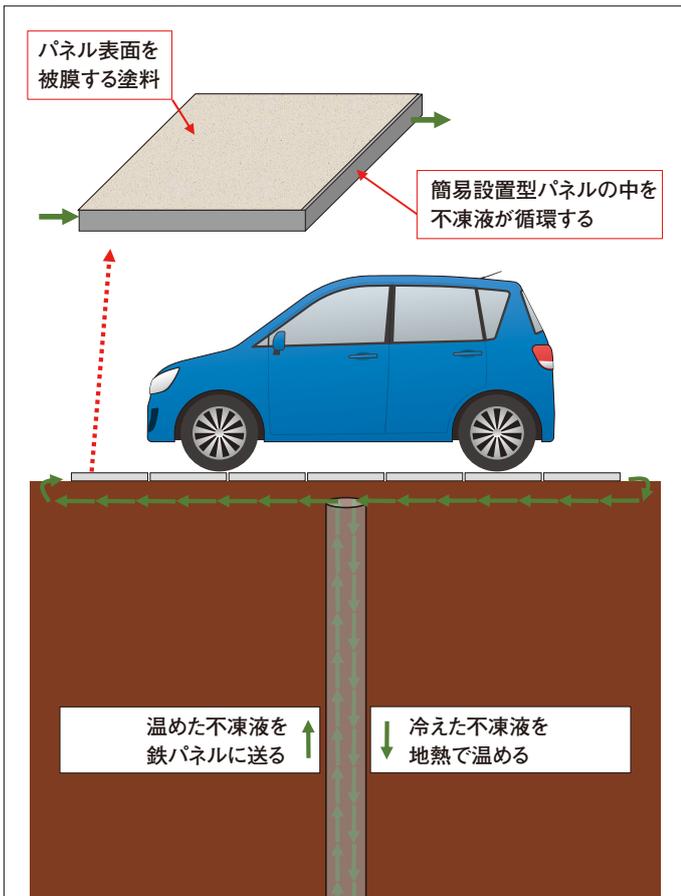
お客様の希望に
どこまで応えられるか、
が次の発展につながる

今回開発したロードヒーティングシステムは十数年前に発案し、それ以降ずっと置き去りにしてきた技術でした。小さな会社にとって、技術開発と通常の業務の同時進行は、人間的にも経済的にも難しいものです。それが、わずか数カ月で商品化に近づくことができてたいへん嬉しく、この補助事業には非常に感謝しております。



代表取締役
菅原 仁

ロードヒーティングの仕組み



試験用に敷設されたパネル



株式会社エルコム

第7回「ものづくり日本大賞」 ものづくり地域貢献賞 受賞!

「ものづくり日本大賞」は、経済産業省、国土交通省、厚生労働省、文部科学省の連携により隔年開催されており、日本のものづくりに関して第一線で活躍する人材にスポットライトを当て、特に優秀と認められた方々が表彰されている。

株式会社エルコム 相馬督代表取締役ほか6名は、産業廃棄物として処分されてきた発泡スチロール等をペレットに加工し、エネルギーとして活用するシステム「e-PEP」を開発し、今回の受賞に至った。

この「e-PEP」システムでは、①発泡スチロール等を減容機で圧縮、②樹脂ペレット製造機で燃料化、③ペレットを自動搬送機でボイラーへ、④ボイラーで燃焼してエネルギーを取り出す、という流れを、1台1台がシンプルでコンパクトな機械によって実現している。取り出したエネルギーは温水、温風・冷風、蒸気などの形で幅広く利用することができる。大規模な処理施設でなくても、廃発泡スチロール等の処分とエネルギーの産出を同時に行えるため、経済性にも環境性にも優れており、国内だけでなく海外でも販路を開拓している。

「世界で必要とされる商品づくり」を目標とするエルコムの主軸は機械設計。製品の製造拠点を固定しなくても良いというメリットがあり、海外に進出しやすいため、今後のグローバルな活躍が期待される。

これまでの取り組み

- 1999年 発泡スチロール減容機「スチロス」販売
- 2007年 樹脂ペレットボイラーの開発を開始
- 2008年 ペレット自動搬送機「キュート」販売
- 2012年 発泡スチロールペレット燃料化システム「e-PEP」の開発を開始
- 2016年 樹脂ペレット製造機「ステラ」販売
樹脂ペレットボイラー「イーヴォル」発売
スチロス、ステラ、イーヴォルを組み合わせた
e-PEPシステムの実証試験
(平成28年度札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業)
- 2017年 e-PEPシステム市場導入

代表取締役 相馬 督



今回、北海道からもいろいろな企業が本賞を受賞しました。食産業以外の分野では、道外の方が有力に見えているかもしれませんが、道内でも「ものづくり」が活発に行われ、十分な成果を上げていることがアピールできたと思います。

栄誉ある賞をいただき、マスコミ等にも多く取り上げられて良いPRになったほか、社としての信用性も高まり、社員にとっても大きな励みとなりました。これからは、社会問題の解決に貢献できる機械の普及に努めることで、雇用や活気の創出など経済効果の面でも社会のお役に立ちたいと思っています。今日まで、事業の成長をサポートしてくださった多くの支援に、感謝しております。



「第7回ものづくり日本大賞 北海道地域表彰式」の様子(2018年2月27日)



株式会社エルコム

- 所在地/札幌市北区北10条西1丁目10番地1 MCビル ●TEL/011-727-7003
- FAX/011-727-7004 ●代表者/表取締役 相馬 督
- 設立/1991(平成3)年4月 ●従業員数/15名 ●URL/http://www.elcom-jp.com/

平成29年度 デザイン活用型製品開発支援事業

1 目的

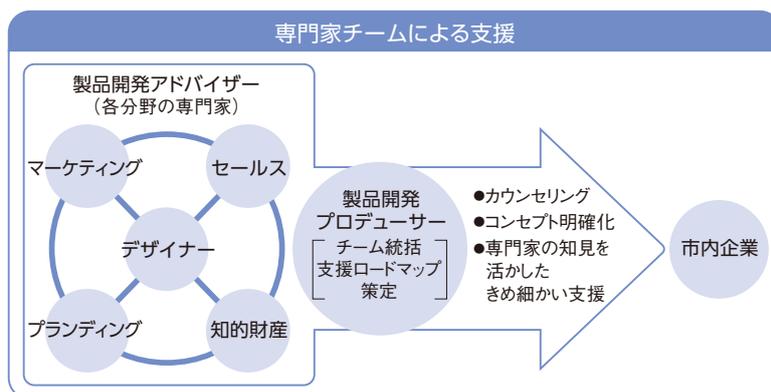
新製品開発や新事業展開を目指す意欲のある市内中小企業に対して、「製品開発プロデューサー」及びマーケティング、セールス、ブランディング、デザイン、知的財産等の各分野の専門家である「製品開発アドバイザー」により構成される支援チームを派遣し、製品開発におけるプロセスの入口から出口まで一貫した支援を行うことで、市内製造業の競争力及び成長性を高め、札幌市経済の活性化に寄与することを目的としています。

2 支援対象者

- 札幌市内に本社を有し、製造業等を営む中小企業者で、市が定める要件を満たすもの
- ・具体的な商品アイデア又は試作品を有すること
 - ・事業を推進するにあたり、デザイン・試作・営業・販売促進費用等の実費負担が可能であること
 - ・完成した製品の新たな市場参入等の成長意欲を有すること など

3 支援内容

製品開発プロデューサーが具体的な支援計画を策定するとともに、マーケティング、セールス、ブランディング、デザイン、知的財産等の各分野の専門家である製品開発アドバイザーを企業の相談内容に応じて選定し、支援チームを結成して企業の製品開発、新事業展開の取り組みを支援します。



4 支援件数

- 3件
(平成29年度採択案件)
- ・売れる製品を作る製品開発チームの確立(株式会社白石製作所)
 - ・樹脂製冷暖房ラジエータの改良、製品開発(株式会社テスク)
 - ・抗菌塗料の商品開発(札幌エレクトロプレイティング工業株式会社)

5 支援対象経費

- ・専門家チームによる製品開発支援(支援計画策定、専門家派遣8回程度)、試作(一部)・・・ 無料
- ・デザイン・試作・営業・販売促進費用等の経費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 企業負担

6 募集期間

平成29年5月19日～7月31日

7 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 産業企画推進部
〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1番1号 札幌市産業振興センター
TEL:011-820-2062 FAX:011-815-9321 URL:http://www.sec.or.jp

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社白石製作所

売れる製品を作る製品開発チームの確立

- 所在地／札幌市白石区米里2条2丁目2-6
- TEL／011-590-1022 ●FAX／011-590-1033
- 代表者／代表取締役 吉田 元海
- 設立／1954(昭和29)年7月 ●従業員数／15名
- URL／http://www.shiro-s.jp/

札幌市白石区米里工業団地で、ステンレスをベースに、食品関連機械や周辺設備を製造する株式会社白石製作所。食品の接液部に最適といわれている素材を加工し、源乳タンクから各種設備、チーズ・バター・クリーム・ヨーグルトの加工機器などを手掛ける。使う人に、喜んでもらえるような製品を提供している。

得意とするステンレス加工の技術を磨き、これまでになかった製品開発に挑む

2つの新製品チームを発足

創業は1954(昭和29)年。現社長の祖父にあたる吉田盛義氏が白石本通3丁目に会社を設立したのが始まり。馬具の製作からスタートし、やがて鉄骨の加工を手掛けることが多くなり、ステンレス素材が使われるようになったころから流し台など、食品工場内の設備を製造するメーカーになった株式会社白石製作所。製造業として品質保証の確保の必要性から2000年にISO-9001の認証を受け、2006年に社屋を札幌IC近くの白石区米里に移転した。受注生産が基本で、発注図面に基づき、ステンレス板をカット・加工・磨き仕上げを経て出荷される。

同社では、こうした下請け体質の他に、もう1本の柱として自分たちの足で歩いていける会社にしていかなくてはならないと考え、ステンレス加工の技術向上を目指して製品開発チームを発足。作業時間の1割程度を目標に、新しいチャレンジに取り組んでいる。現在2つのチームがある。「人差し指はFとJ」となるとも遊び心あふれるネーミングのチームは、売れる製品を生み出すことがミッション。これまでにステンレスで作ったボルダリングボードや犬の置き物、ティッシュケースやカヌーといった試作品に取り組んできた。「白石②(まるに)チーム」は、ステンレスを使って世の中に存在していない製品を生み出すことをミッションとしており、ステンレスを使ったまったく

新しい製品開発に挑んでいる。実際に販売するとなると、単価があわずに高額となるところがネックだが、発想力を磨き、技術力を高める創造をつづける。

技術力を高めるために

同社では個人のスキルは自分で磨くといった方針をとっている。来た仕事をただかたちにしていだけでは技術の腕が磨かれずと考え、技術力を高めるためにも、会社として新しい製品を生み出す種まきの意味でも、一定時間を必ず確保して、新しい発想・製品を創ることを自らに課して時代を切り開こうとしている。

新しい挑戦の一環で コーヒー店の経営も

会社の3代目として社長に就任して2年になります。創業者である祖父の家を使って「焙煎研究所」という焙煎機と自家焙煎豆の喫茶店も経営しています。これもステンレスの可能性を追求すること。遠赤外線ガスコンロ式のこれまでに存在していないタイプの焙煎機です。新たなチャレンジに今後の可能性を見出していきたいと思っています。



代表取締役社長
吉田 元海

工場の全景



スタッフである職人が担当工程をこなしている



試作品の一つ、犬のティッシュボックス



ボルダリングボードの模型



平成29年度 観光商材開発支援事業

1 目的

市内企業の外国人観光客向け商品開発に係る経費の一部を補助することにより、外国人観光客による消費拡大を促し、市内企業の販路拡大等につなげることを目的とする。

2 補助対象者

札幌市内に本社(本所)を有する外国人向け観光商材*の製造者となる中小企業。または札幌市内に本社(本所)を有する、観光商材の企画・販売者となる企業(大企業を含む)。ただし、販売者は北海道内に本社(本所)を有する中小企業に対して観光商材を委託製造させること。

※「観光商材」とは、外国人観光客を対象とした、お土産品(食品、雑貨等)とする。

3 補助対象事業

外国人観光客への販売拡大を図るため、観光商材の開発を行い、流通させる事業

4 補助内容

補助対象経費の1/2以内、上限額70万円を補助。

【その他支援】

- ・開発製品のアンケート、外国人の嗜好等の調査を目的とした留学生によるモニタリングを実施。
- ・新商品の販路開拓支援として、「東京インターナショナル・ギフト・ショー春2018」に共同出展。

5 補助件数

9件

(平成29年度採択案件)

- 雑貨等・北海道のお花とありがとうのポストカード開発(ありがとうの花束Sachi&Aki co.)
 - ・外国人観光客向け“サムエジャケット”開発(株式会社ノースグラフィック)
 - ・海外客向け工芸土産品テーブルランプの開発(清水勸業株式会社)
- 食品・海外向けカシューナッツ詰め合わせギフトの開発(池田食品株式会社)
 - ・「炙り焼蒲鉾 猿払産はたて/増毛産甘海老」の開発(株式会社かね彦)
 - ・北海道プレミアムクッキーの開発(株式会社小六)
 - ・幻の玉ねぎ札幌黄のスープカレーラーメン開発(株式会社ブルックスカレー)
 - ・五穀豊穡(北海道のお米詰め合わせセット)開発(株式会社MACH)
 - ・札幌ラーメン乾麺(アニマルフリー)開発(有限会社ムラキフードプランニング)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 製造費 ■ 機器費 ■ 検査・認証費 ■ マーケティング活動費 ■ 旅費
- その他市長が適当と認める経費

7 募集期間

平成29年4月28日～5月30日

8 申請の受付・問い合わせ

経済観光局国際経済戦略室経済戦略推進課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

TEL:011-211-2481 FAX:011-218-5130

URL:<http://www.city.sapporo.jp/keizai/tradeinfo/kankoshozai/kankoshozai.html>

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

清水勸業株式会社

海外客向け工芸土産品テーブルランプの開発

- 所在地／札幌市中央区南11条西20丁目4-8
- TEL／011-561-4201 ●FAX／011-561-4238
- 代表者／代表取締役社長 渡辺 洋人
- 設立／1947(昭和22)年9月 ●従業員数／23名
- URL／http://www.43z.co.jp/

清水勸業株式会社は昭和22年十勝清水町で創業。主に北海道電力社へ電気資材の卸として歩んできた。事業の多角化や新分野の進出などにより、事業領域は次第に拡大。産業用の機材販売や住宅関連の暖房機販売などの分野へも進出している。30年ほど前からはLEDランプの研究開発をも手掛け、個人客向けの照明商品の開発・販売にも挑む。

業務で培ってきた技術力を活かして新分野を開拓 外国人観光客向けにテーブルランプという工芸土産品の販売に挑む

電気メーカーとのつきあいの中から

電気資材の卸を中心として成長してきた清水勸業株式会社は、北海道電力を主な得意先としてきた。卸売業ゆえに各種メーカーとのつき合いも多く、屋外看板や電気照明の案内板といったLED照明の製品も数多く取り扱ってきた。そんな経緯から、札幌の照明デザイナー事務所とのつながりが生まれ、2006年ごろから商業施設のライトやホテルロビーなど、デザインセンスあふれる雰囲気のいい照明計画の設計・設置に携わってきた。

こうした流れのなか、一般個人客向けの商品開発に挑み、ユニークな照明商品を開発してきた。その特長として「自然のゆらぎ」がある。温かみのある電球色のLEDを「1/fゆらぎ」と呼ばれるランダムに点灯する回路をつかい、より自然に近いロウソクの炎がゆらいでいるような灯りを演出することができる。こうしたゆらぎLEDを搭載した照明器具は、「建物シリーズゆらぎ照明」として札幌時計台のミニチュア模型の中に電球を入れて窓からあかりがもれる照明器具などを開発、販売してきた。

札幌ならではの土産品への期待

オリジナルの照明商品は「北のらっちゃん」というブランドネームで販売される。今回、外国人観光客向けの土産として「灯の樹」と「灯の妙」を開発。和の趣を演出した手のひらサイズの小型照明で、取扱説明書には英語の表記も取り入れた。贈り物を想定した高級感あふれるパッケージは、専門家からのアドバイスを受けて、持ち帰りやすさを考慮し、小型化に努めた。

灯の樹は、北海道の雪を被った樹木のデザイン。円錐が点灯すると、北国のさまざまな風景が映し出される。灯の妙は日本古来の燭台を模したデザイン。シンプルに描かれた北の自然が浮かび上がる。訪日外国人旅行者が、札幌の風景を思い出してもらいたいという想いも込められている。これら映し出される風景写真やイラスト、記念写真もパソコンから透明フィルムに出力して型に沿って円錐形に切ればそのデザインが浮かび上がるように。使い方、提案の仕方によっては可能性が広がる商品。スイーツが主流の札幌観光のお土産品にあって、異彩な輝きをはなつ同社の新シリーズのヒットが期待されている。

右が「灯の樹」、左が「灯の妙」。1/fゆらぎで点灯するため、自然な風合いの灯りになっている



お土産品利用を想定した製品パッケージ



図版はかんたんに差し替えられる



反応は上々、販売方法に工夫したい

東京のギフトショーに出展した反応としては「外国人に興味をもたれそうで、おもしろい」という声が多数寄せられました。今は新千歳空港国際線ターミナルビル3Fの土産店「小笠原商店」と富良野市内のニングルテラス「紙々の森」で販売しています。大量生産ではないので販売価格がネックかもしれませんが。今後はホテルなどもタイアップして販売できればと思っています。



取締役
グループリーダー
野田 英樹

代表取締役社長
渡辺 洋人

平成29年度 6次産業活性化推進事業

1 目的

北海道の農水畜産資源の高付加価値化を促進するとともに、食関連産業の振興、及び北海道経済の活性化を図ることを目的としています。

2 補助対象者

北海道内の1次産業者と、札幌市内の2次、3次産業者によるコンソーシアム
(1次産業者と2次産業者のみ、1次産業者と3次産業者のみの組み合わせも可とします。)

3 補助対象事業

北海道内の1次産業者と、札幌市内の2次、3次産業者が対等な関係で連携し、北海道の農水畜産物資源を活用した食品の新商品開発を行う事業

4 補助金額

補助対象経費の2/3以内、上限額400万円

5 補助件数

6件 ※①:1次産業者、②:2次産業者、③:3次産業者、◎:コンソーシアム代表者

- ・‘幻の札幌黄’を活用した、帯広五日市かみこみ豚と帯広豊西牛、十勝産大豆ユキシズカのコレボレトルトカレー開発事業
(①(有)五日市(帯広市)、③(株)コンフィ(札幌市)◎、③AKARENGA-CAFÉ(札幌市))
- ・100%北海道産原料を使用した全国展開を目指す原料公開型のさっぽろスイーツの製造・販売事業
(①そらち南農業協同組合(栗山町)、②③フードプランニングオフィスサレド・シュクレ(札幌市)◎、③(株)ブロード(札幌市))
- ・空知産加工用トマトを使った道産野菜100%のミネストローネ開発事業
(①ファーム辰馬(奈井江町)、②③(株)北海道フード工房(札幌市)◎)
- ・厚真産ハスカップ6次化プロジェクト「最高級アイスバー開発」
(①ハスカップファーム山口農園(厚真町)、③(株)エスコム(札幌市)◎)
- ・天塩町のホッケを利用した加工品開発事業(①菅井漁業部(天塩町)、③(株)ソナトキアプロジェクト(札幌市)◎)
- ・フルーツほおずきを用いた菓子類の開発事業(①しずお農場(株)(士別市)、③GELATERIA Geream(札幌市)◎)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 人件費^{※1} ■報償費 ■原材料費 ■消耗品費 ■通信・運搬費 ■機器リース費
- 機器購入費^{※2} ■施設及び設備等賃借料 ■外注費 ■旅費・交通費
- マーケティング調査費 ■その他の経費

※1 人件費については補助額の1/2以内 ※2 機器購入費については単価50万円以内

7 募集期間

平成29年4月24日～平成29年7月10日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 販路拡大支援部
〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1番1号
TEL:011-820-2062 FAX:011-815-9321 URL:<http://www.sec.or.jp>

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

サレ・ド・シュクレ

100%北海道産原料を使用した全国展開を目指す
原料公開型のさっぽろスイーツの製造・販売事業

- 所在地 / 札幌市中央区南5条西5丁目
ジャパンランドビル3F・4
- TEL / 090-6261-9624
- 代表者 / 代表 きむら まどか
- 設立 / 2011 (平成23) 年 ●従業員数 / 5名
- URL / <http://s-cercle.com/>

飲食事業部としてススキノのビル3階に「ブラスリーセルクル」というフレンチのお店。製造事業部として同じビル4階に「スイーツセルクル」という製造スペース。少しはなれたススキノの一角にスイーツを販売する店舗「シューセルクル」の3つを展開するのが、フードプランニングオフィス「サレ・ド・シュクレ」。一度は諦めかけたスイーツの事業だったが、1つのキッカケから全国展開に挑むことになる。

尊敬していた亡きフレンチシェフの技術を元に 北海道産素材100%の高級シュー(シューセルクル北海道ビーンズ)を全国展開

一度はあきらめた事業の経営

代表のきむらまどかさんは多彩な顔を持つ人。フードアナリストであり、料理人、店舗経営者でもあり、スイーツ開発のプロデューサーでもある。もともと食べることが大好きで、小樽のホテルで副支配人をつとめた後、6次化商品開発のコンサル業などを経て2011年、尊敬するシェフと2人でフレンチ店「ブラスリーセルクル」を立ち上げた。その後、シェフの急逝を受け、きむらさんは自分が厨房に立つことを決意。お客や支援者の声に応えるためにも同店を続けている。

フレンチシェフの仕入れから仕込みの様子を12年間間近でみてきたきむらさんは、ある時、デザートであるシュークリームを原材料を変えてつくってみた。素材によってすごく味が変わることを実感。もともとシュークリームが大好きだったことから、最高の原料を使っただけにもないシュー(クリーム)をつくりたいと思うようになった。シェフが残してくれた脱水技術を応用して、食品添加物不使用、生地が落ちないというこれまでの常識を超えるものに挑んでいた。納得のいく商品が出来上がったものの売上は伸びず、2017年1月、事業を辞めることを決意した。

1本の電話から全国展開へ

その数日後、朝9時。見知らぬ番号の電話があった。なんと、高島屋

のバイヤーだった。「ホームページを見て連絡したのですが、今日会えますか?」と。バイヤーはその日の午後に見え、横浜店、新宿店の物産展への出展が決まった。

商品のシューは、素材のすべてを道内産にしたかった。しかし、原料のひとつ、コーンスターチだけは国産のものがなく道産率98%だった。だが、これも食品加工研究センターからの情報をもとに栗山に代替品を確保。100%道産素材のシューが完成した。

同社の特長は素晴らしい北海道内の生産者を選びすぐり、原材料をすべて公開しているところ。脱水技術によって、4日間の消費期限がある。冷凍で流通させることができ、解凍しても離水することがないという特長をもつ。道産スイーツの全国展開が期待される。

海外への展開にも期待

高島屋での販売は首都圏の厳しい消費者であればあるほど、受けが良かったです。コンビニの4倍ほどの価格にもかかわらず、商品説明をじっくりと読む人はその価値を理解して購入してくれました。冷凍で流通ができるので、カスタードクリームやギフト商品を海外へ販売したいと思っています。



代表
きむら まどか

シューは一つひとつ手作業される



逆さにしても落ちないしっかりとしたクリーム



道産の豆類をトッピングした「シューセルクル北海道ビーンズ」



スタッフがしっかり手早く正確に手づくり



平成29年度 輸出仕様食品製造支援事業

1 目的

輸出向け食品の開発を促進し、海外における道産食品の販路拡大を図ることを目的としています。

2 補助対象者

- ・札幌市内に本社(本所)を有する輸出仕様食品の製造者となる中小企業
- ・札幌市内に本社(本所)を有する輸出仕様食品の販売者となる企業(大企業を含む)または協同組合

3 補助対象事業

輸出向け食品を開発して海外に流通させる事業

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額200万円

5 補助件数

10件

- ・アジア圏へのアイスクリーム商品輸出事業(合同会社CANDICE)
- ・北海道産日本酒の新ラインとパッケージ開発(株式会社Kカンパニー)
- ・北海道米の海外輸出向けパッケージ開発(株式会社札幌)
- ・ソーセージ・ベーコン輸出仕様試作生産販売企画(札幌バルナバフーズ株式会社)
- ・北海道米を使用した冷凍加工品輸出プロジェクト(サッポロライス株式会社)
- ・アニマルフリー・ラーメンスープ開発(株式会社シンセン)
- ・月寒あんぱん 海外定番化促進に向けた輸出仕様専用箱開発(株式会社ほんま)
- ・オリーブdeサーモン、鮭ジャーキー、鱈ジャーキーの輸出仕様食品製造と販路開拓(株式会社マルデン)
- ・北海道の昆布を使った海外向けふりかけの開発(山小 小林食品株式会社)
- ・「幸せカタラーナ」の東南アジア向けパッケージ変更プロジェクト(株式会社よねたや)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 製造費 ■機器費 ■輸出関係費 ■海外マーケティング費 ■旅費
- その他本事業の遂行に必要と認められる経費

7 募集期間

平成29年4月11日～5月10日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 販路拡大支援部

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1番1号

TEL:011-817-7890 FAX:011-815-9321 URL:<http://www.sec.or.jp>

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社ほんま

月寒あんぱん 海外定番化促進に向けた輸出仕様専用箱開発

- 所在地／札幌市豊平区月寒東2条3丁目2-1
- TEL／011-851-1264 ●FAX／011-854-9034
- 代表者／代表取締役社長 本間 幹英
- 設立／1952(昭和27)年 ●従業員数／50名
- URL／http://www.e-honma.co.jp/

明治39年に創業。今年で112年を数え、札幌市内で最も歴史のあるお菓子店。月寒から平岸への通称「アンパン道路」は同社のあんぱんを食べながら造られたことでも知られる。日本の和洋菓子は海外からの引き合いが強いことから英語表記の新パッケージを製作。海外でもロングセラーを目指す。

海外用の新パッケージを開発、 販路拡大につなげロングセラーを目指す

「月寒あんぱん」の新しい箱を製作

地元・札幌で百年を超えて愛されるロングセラーのおやつをつくり続けてきた株式会社ほんま。同社での海外展開は昭和50年代ごろから始まり、アメリカ本土やハワイへカステラを輸出していた。2006年、5代目の後継者として東京でまったく違う仕事をしていた創業家の本間幹英氏に声がかかり入社。翌年、札幌市が主催する台湾での商談会に誘われ参加したことが、自社のメイン商品である「月寒あんぱん」の海外進出のきっかけとなった。東南アジア各地では、日本食が人気であり、メイドインホッカイドウ商品は競争力があつた。しかし、月寒あんぱんの場合は、ちょっと事情が違っていた。というのも、同社の製品に良く似た中国産の「月餅」という人気商品がすでに流通していたからだ。外見は似ていても、中身はまったく違う。食べて味を比べるとその違いをわかってもらえるものの、いかにこの商品と差別化させるかが課題の一つであった。

既存の5個入り詰め合わせ箱は日本語表記しかなく、外国人に理解されていない現状があつた。そこで、パッケージデザインを一新。日本製であることをアピールしながら、同社の歴史や商品の特長などを英語表記し、箱を見ただけで、どんな企業がつくるどんな商品なのかが理解できるようにした。デザインは、高級感と上品なインパクトを与えるように配慮。11月に完成した。

左が新パッケージ、右は従来品



パッケージの側面には英語と日本語で製法や歴史を紹介する



長く売れ続ける道産おやつを目指して

新パッケージはシンガポールとアメリカのスーパーで店頭販売された。試食販売も重ねた結果、売上は順調に伸びた。消費者の反応も良かったが、流通側である小売店の反響が高かった。社長自ら、短期間に4回も現地に足を運び、海外専用パッケージをつくってまで販売しようとする、その熱意が伝わった。

同社では、ヒット商品になるより少量でもいいから売れ続けるロングセラーになることを何よりも願っている。東南アジアはもちろん、欧米でも餡はヘルシーなものという認識で人気が高まっている。道産の原材料にこだわり変わらぬ製法で長く愛される製品の販売を願っている。

海外展開へのはずみに

「月寒あんぱん」は単品で販売されることも多いのですが、カラの箱を置いておくことで、「5個入りセット」が自分の好みでまとめ買いできるようにしてあります。海外展開でも、日本と同じやり方をしたいと思っていました。今回の助成によっていろいろな面で成果が上がりました。いいきっかけになったと思っています。



代表取締役社長
本間 幹英

地下鉄出入口直結にある月寒アンパン本舗ほんま総本店



アメリカサンゼで社長自ら店頭に立ち販売



平成29年度 IT利活用促進事業費補助金

1 目的

札幌市内の中小企業が、自社の経営課題の解決に向けた取り組みにおいて、ITの利活用を行うために発生する費用の一部を補助することにより、市内中小企業の競争力及び成長性を高め、札幌市経済の活性化に寄与することを目的としています。

2 補助対象者

札幌市内に本社を有する中小企業者及び企業グループ
ただし、IT産業を主たる事業として営む会社及び個人は除きます。

3 補助対象事業

自社の経営課題(自社の商品やサービスの高付加価値化を図る、更なる販路を拡大する、あるいは、業務効率化を図るために自社業務を改善する等)を解決するために、ITの利活用を行う取り組み。

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額200万円

5 補助件数

5件(予算1,000万円の範囲内で実施)※ 上位5件の補助金額が予算上限に満たなかったことから本年度は6件採択(平成29年度採択案件)

- ・社内データベースの構築による営業・技術・総務部門の業務標準化と連携強化(五島冷熱株式会社)
- ・化合物の化学的・生物学的データ管理のためのグラフデータベースの構築(株式会社スカイシーファーマ)
- ・設備工事業務支援システム開発事業(大真エンジニアリング株式会社)
- ・会社統合統合ネットワーク及び利用者データベースシステム構築による業務生産性向上と顧客対応力向上(社会福祉法人楡の会)
- ・訪問入浴介護における電子カルテシステム構築事業(三井ヘルスサービス株式会社)
- ・タイヤ保管管理システム(webシステム版)(モス物流プランニング株式会社)

6 補助対象経費

本事業実施に係る市内中小IT企業者※1との間で発生する以下の経費

■ハードウェア購入費及び使用料 ■ソフトウェア購入費及び使用料 ■ソフトウェア開発委託費

※1 札幌市内に本社を有し、IT産業を事業としている中小企業者

7 募集期間

平成29年4月24日～7月28日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 情報産業振興部

〒004-0015 札幌市厚別区下野幌テクノパーク1丁目1-10 札幌市エレクトロニクスセンター

TEL:011-807-6000 FAX:011-807-6005 URL:<http://www.sec.or.jp>

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

有限会社プロケア (平成28年度採択企業)

児童発達支援・放課後等デイサービス業務管理システム

- 所在地／札幌市北区篠路2条7丁目6-30
- TEL／011-776-5515 ●FAX／011-774-5539
- 代表者／中公 康宗
- 設立／2000(平成12)年2月 ●従業員数／47名
- URL／<https://www.procare.jp/>

児童発達支援・放課後等デイサービス「ゆうあい」と「ひだまり」に加えて、高齢者対応型グループホーム「ゆうあい」を営む有限会社プロケア。これまで、手作業で別々のエクセルファイルを使って利用者の記録や管理を行ってきた。こうしたデータをひとつのパソコンソフトウェアで一元管理をすることで、事務作業が大幅に軽減。転記ミスが減り、空いた時間を利用者へのサービス向上につなげている。

いくつもの手書き書類の山から開放、 事務作業を独自システムにより短時間で正確に

煩雑な事務作業にミスや遅れが

発達の遅れや障がい、心の悩みなどを抱える子どもたちと、子どもの発達に不安を抱えるその家族に対して、一人ひとりの成長を多様な視点で適切な療育支援を提供する「ゆうあい」と「ひだまり」施設。国の制度によって定員が決まり、1度に利用できる人数も定められている。同社では2つの施設で定員が40名。それぞれに対して、月末に提出する記録や書類の管理に頭を悩ませていた。

利用者の保護者に対してはアナログのやりとりからスタートする。翌月の行事一覧を記入したカレンダー形式の紙を渡し、参加希望の日程をマル印で記入してもらう。このカレンダーをベースに学校からの送迎時間一覧表を作成。毎日の送迎にロスやミスがないようにしている。個別の利用日数表や全体の月別利用集計一覧など、各台帳記録を別々の手入力ファイルに打ち込み集計していた。手作業ゆえミスも多く、関係各所に迷惑をかけてしまうこともあったという。

業務支援ソフトが完成

事務担当者などが中心となってこうした状況をパソコンソフトで一括管理できないものか、と思案していた。そんな折、「IT利活用促進補助」の存在を知り、担当者が説明会に参加したことから本プロジェクトがスタートした。職員へのヒアリングを通して業務と

書類の流れを把握。それをシステム開発の専門家に伝えることに苦労した。結果、1年ほどの時間を要して業務支援ソフトが完成。2017年の春に運用をスタートした。

できるだけ使いやすいようにと、専用ソフトを開いた画面では、直感的にわかるスタート画面にしてもらった。各個人の基本データベースを登録しておき、後は毎月の利用日などを1カ所に入力する。すると関係する各書類に反映され、一覧データも瞬時に作成・出力できるようになった。事務作業から開放された同社では、空いた時間を利用者のために使っている。

使いこなして 作業効率を上げたい

導入してだいぶ操作に慣れてきました。もっとスムーズに使いこなして作業効率をあげられればと思っています。かなり高性能の当社にマッチした管理システムですが、国の書式に連動していない部分もあります。今後はその部分も連携するようになれば、もっと働き方改革につながっていくように思います。

管理者 佐藤 昌彦



直感的に使える操作パネル



月間カレンダー形式の入力画面



これまで使ってきた紙書類の一部



パソコン画面のスタートアイコン



平成29年度 IT産業海外展開支援事業ローカライズ支援補助金

1 目的

札幌市のIT産業の活性化と持続可能な成長を促進するため、海外ニーズに対応するITを活用した製品・サービスの開発を支援し、海外市場への販路拡大を推進することを目的とする。

2 補助対象者

札幌市内に本社又は商業登記上の本店を有する中小企業者及び企業グループ

3 補助対象事業

補助金の交付の対象となる事業は、札幌のIT産業の海外における販売拡大を図るため、IT製品のローカライズを行って海外に流通させる事業とする。

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額100万円

5 補助件数

5件(予算500万円の範囲内で実施)

(平成29年度採択案件)

- ・海外向け地図データ配信提供事業(株式会社MIERUNE)
- ・クラウドサービス サスケ リードのローカライズ(株式会社インターパーク)
- ・VRを活用した音楽ゲームの開発及び海外展開(クリプトン・フューチャー・メディア株式会社)
- ・スマート農業展開支援システム開発・販売(システムデザイン開発株式会社)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 調査費 ■機器費 ■海外マーケティング費 ■旅費 ■外注費 ■人件費^{※1}
- その他市長が適当と認める経費

※1 補助対象経費合計額の1/2未満までを補助対象として認める。

また、本事業に直接関与する従業員の直接作業時間に対するものに限る。

7 募集期間

平成29年5月8日～6月16日

8 申請の受付・問い合わせ

札幌市 経済観光局国際経済戦略室IT・クリエイティブ産業担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1西2丁目 札幌市役所15階

TEL:011-211-2379 FAX:011-218-5130 E-Mail:it.contents@city.sapporo.jp

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社インターパーク

クラウドサービス サスケ リードのローカライズ

- 所在地／札幌市中央区大通西10丁目4
南大通ビル2F
- TEL／011-219-4000 ●FAX／011-219-4001
- 代表者／代表取締役社長 船越 裕勝
- 設立／2001(平成13)年7月 ●従業員数／26名
- URL／http://www.interpark.co.jp/

WEBのシステム開発と自社製品の提供の2本柱で、企業が抱える本質的な課題解決法を提供するIT企業。2000年の創業以来、技術力と提案力でWEBシステムを作り続けている。現在のメイン商品は自社開発のソリューションシステム「サスケ」。主に法人営業の分野に関して、見込客の管理を目的としたクラウド型のソフトで企業が抱える課題を解決する。

1,000社以上で使われる「見込客一元化アプリ」のシンガポール版を製作、海外進出を目指す

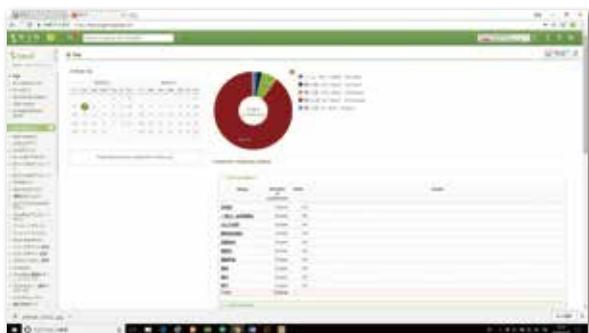
自社製品「サスケ」を全国販売

株式会社インターパークは顧客企業の課題を聞き、その課題解決に貢献してきた。受注開発をつづける中、請負ではない自社製品の必要性を感じていた。そんな折、企業の営業面での課題はデータの一元統合ができていないことを知る。セミナーや展示会を実施した後、「名刺を集めたがいったいどこからセールス活動を開始したら効率的か」といったことや、営業マン各々の情報が共有化されていないとか、営業部とコールセンター部門がバラバラに情報を持っていることで、効率的な見込客フォローができていない企業向けに有効なサービスアプリを開発・販売してきた。こうした状況を背景に、「サスケ」と名付けられたオリジナルシステムが誕生した。特長は主に2つある。ひとつは名刺や電話営業データといったアナログ(オフライン)情報と、WEBからのお問い合わせやWEBサイトの閲覧履歴などオンライン情報の両方が一体となってつなぎ目なく利用できる仕組みになっていること。二つ目には高度なデータマージ技術(重複した個人データを統合・更新すること)で全ての見込客データを名寄せできることといった、システムの正確さによるものがある。さらに、このシステムはクラウド型のため、いつでもアップグレードという改良を加えることができる。同社では2009年のリリース以来、年20回以上の改良を加えて運用。顧客の利便性を高めつづけている。

「サスケ」のメインメニュー



シンガポール仕様の英語版、画面の一部



国内での成功により海外版開発へ

東証一部上場企業から数名の中小企業まで利用している「サスケ」。利用企業の8割は、東京など在住の企業。販路拡大を考えて、同社では海外への進出も考えていた。世界の企業営業の環境を肌感覚で捉えようと現地に足を運んだ結果、シンガポールを選択。「ITローカライズ補助」を申請し、シンガポール向けにアレンジしたサスケの現地版を目指した。制作にはインド人の技術者を招き、カスタマイズ開始。2018年1月下旬に完成した。2月にはデモンストレーションがスタートし、今後は現地の提携法人を通じて広めていく。

地道な活動で販売数を伸ばしたい

この手の商品は、ずっと我慢の時期があって、突然ぐっと売行きのカープが急上昇する傾向があります。なので、シンガポール版も最初は苦戦することを覚悟しています。しかし、企業が抱える問題を解決してくれるシステムで、使い勝手がいいものであれば、必ず売れてくる。国内で手応えを感じているので、地道に活動していきたいと思っています。



代表取締役社長
船越 裕勝

カレンダーやグラフなども連動して見やすい



会社のエントランス



ASPIC IoT・クラウドアワード2017で委員長特別賞を受賞



平成29年度 映像制作助成事業(海外プロモーション映像活用事業助成金)

1 目的

海外に向け、映像を活用して商品の販路拡大や観光客誘致等を実践する札幌市内企業等の取組に対し、その経費の一部を補助することで、映像関連産業以外の産業の映像活用及び海外への販路拡大を促進することを目的とする。

2 補助対象者

- ・札幌市内企業等
- ・札幌市内企業等を代表として構成したコンソーシアム

3 補助対象事業

札幌市内の映像制作事業者等を活用して、海外に向け、商品のプロモーションに資する映像制作を行い、海外の映画・テレビ番組、インターネットでの動画配信等の媒体や見本市等でその映像を発信するとともに、それと連動して商品の販路拡大や観光誘客等を実践する取り組み

4 補助金額

補助対象経費の1/3以内、上限額1,000万円

5 補助件数

2件

(平成29年度採択案件)

- ・絵本のアニメーションDVD化事業(特定非営利活動法人Fit北海道会議)
- ・タイのメッシ”J”を活用したドキュメンタリー映像の発信による北海道プロモーション(株式会社JTB北海道)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

■業務委託費(映像コンテンツの制作及び放映・公開のために支払われる

①施設使用料、②撮影許可手数料、③人件費、④機材費、⑤車両費、⑥宿泊費、⑦航空賃、⑧放送枠料)

■その他適当と認められる経費

7 募集期間

【1回目】平成29年5月24日 【2回目】平成29年7月18日

【3回目】平成29年9月22日 【4回目】平成29年12月13日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 映像産業振興課映像産業振興係

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1 札幌市産業振興センター

TEL:011-817-5711 URL:<https://www.screensapporo.jp/subsidy/>

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

特定非営利活動法人 Fit北海道会議

絵本のアニメーションDVD化事業

- 所在地／札幌市中央区南1条西5丁目17-2
プレジデント松井ビル3F
- TEL／011-210-2110 ●FAX／011-221-3977
- 代表者／太田 清澄
- 設立／2012(平成24)年6月 ●従業員数／10名
- URL／<http://fit-h.net/>

大学名誉教授を理事長に、北海道の食を通じて人と地域の豊かな未来づくりを目指すNPO法人。道内の生産者や自治体、加工・製造会社をコーディネートし、未利用資源を使った食品開発や、6次産業化などをサポートする。マーケティング・販路開拓までの戦略提案を行い、地域活性化を支援している。

故おおば比呂司さんの絵本を映像化。 アニメーションムービーを通じて札幌の観光をPR

地域資源を活用するプロデュース集団

「Fit北海道会議」には地域活性化や事業活性化を目的とした商品開発などの分野に精通した人材が集まる。女性を対象とする市場化支援組織とのネットワークを持ち、地域や企業の課題解決に向けたプログラムの策定と実践を得意としている。これまで、年間10～20件の案件に対応し「とちか池田の牛カレー」や「とうべつ玄米リゾット」といった製品をプロデュース。道内の各地域へ貢献してきた。

役員の中にたまたま、札幌出身の漫画家・画家である故おおば比呂司さんと親交があり氏の作品権利を管理しているメンバーがいた。今年2018年は氏の没後30年にあたることから「節目になにかしたい」という想いを抱き、模索していた。そんな時に札幌市の海外プロモーション映像活用事業助成金の話を聞き、おおばさんが遺した「サケの旅」という絵本を映像化することで、札幌・北海道の観光PRに役立てないか、ということで事業化が決まった。

制作は難航するも短期間で完成

2017年7月。台湾で企画された日本フェア「2017美食展」に札幌市がブースを出展することになり、その場で今回企画されたムービーを持ち込むことが決定した。そのため、制作期間が約2ヶ月間と短かく制作メンバーを苦しめた。30ページほどの絵本を動画に再編集

する作業は思ったほどやさしくはなかった。原画のもつやさしい雰囲気を残しつつ動画ならではの動きや演出をつけなければならぬ。なかでも制作陣を悩ませたのは、ナレーションを入れるタイミングだった。何度も試行錯誤した。

こうして夏、映像は完成。台湾でデビューした。会場でのアンケートでは好評だった。その後、パッケージデザインなどを検討し、DVD版とブルーレイ版それぞれ5分30秒の動く絵本が完成した。商品は当面、札幌市資料館のおおば比呂司記念室のグッズ販売コーナーに置かれる。サケが戻ってくるまち札幌の自然豊かな一面を知ってもらいたいとメンバーは意気込む。

子どもたちと 外国人に見てほしい

今年2018(平成30)年は北海道150周年にあたる年。この記念事業にも、おおば先生の作品を通して自然豊かな札幌・北海道を体感してもらいたいと思っています。30年以上経っても決して色あせることのないこの作品は、特に子どもたちと外国人に見てもらいたいと思っています。



常務理事
茂手木 貴一

おおばさんの作品が販売される「記念室3」



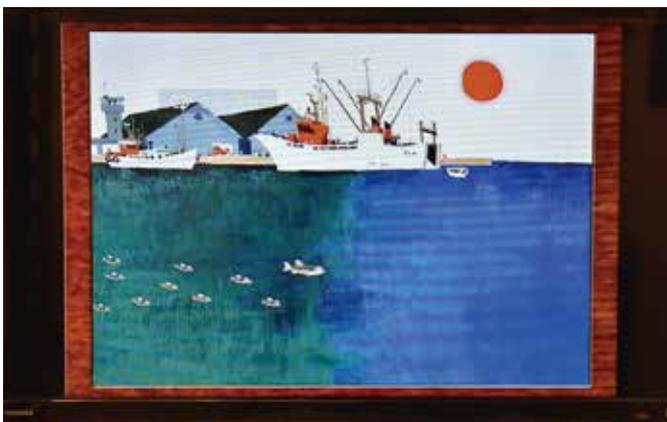
原作の絵本「サケの旅」



今回映像化された2種類の商品パッケージ



映像の1カット、絵が動きナレーションが入る



平成29年度 コンテンツ活用促進事業費補助金

1 目的

北海道内の中小企業が、自社の経営課題の解決に向けた取り組みにおいて、札幌市内のクリエイターと連携しながらコンテンツ(デザイン、映像、音楽、キャラクターなど)活用を行うために発生する費用の一部を補助することにより、市内中小企業の競争力及び成長性を高め、札幌市経済の活性化に寄与することを目的としています。

2 補助対象者

北海道内に本社を有する中小企業及び企業グループ等。ただし、コンテンツ等の事業を主に営む中小企業者等を除く。

3 補助対象事業

自社の経営課題(自社の商品やサービスの高付加価値化を図る、更なる販路を拡大する、あるいは、業務効率化を図るために自社業務を改善する等)を解決するために、コンテンツの利活用を行う取り組み。

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額200万円

5 補助件数

3件程度(予算600万円の範囲内で実施)

(平成29年度採択案件)

- ・音楽コンテンツを活用した「スーパー極上キムチ」ブランディングPR事業(北日本フード株式会社)
- ・北海道を代表とする作物(ハスカップ、小豆)に付加価値をつけるコンテンツ制作とデザインの活用(株もりもと)
- ・らんこし米とグルテンフリー商品の売れる通販サイト制作およびブランディング事業(株米夢館)
- ・道産子ヒーロー「舞神ソーランドラゴン」のTV番組化とレトルトカレー開発プロジェクト
(合同会社 道産子英雄企画)
- ・地域の店舗間連携による『まちづくり』活動を目指した紙媒体とWEBの相互連携による集客システムの開発(株Savon de Siesta)

6 補助対象経費

補助対象者が本事業実施にあたり、札幌市内でコンテンツ等の事業を営む中小企業者との間で発生する経費等。ただし、補助対象経費の50%以上がクリエイターに支払われる直接人件費であること。

7 募集期間

平成29年5月30日～8月4日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 インタークロス・クリエイティブ・センター
〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1
TEL:011-817-8911 URL:<https://www.icc-jp.com>

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社ネクステック (平成28年度採択企業)

「ポジモ」のブランド化と広域啓蒙活動促進事業

- 所在地／札幌市北区北7条西5丁目8-1
北7条ヨシヤビル8F
- TEL／011-729-3711 ●FAX／011-729-3712
- 代表者／代表取締役社長 大石 憲且
- 設立／1997(平成9)年11月 ●従業員数／15名
- URL／<http://www.nextech.co.jp/index.php>

「ネットワークをお客さまの思い通りに!」を企業理念に持つ株式会社ネクステックは、ネットワークに特化したソフトウェアやシステムの開発を受託してきたIT企業。サイト運用管理サービスではコンサルティングサポートや特殊サーバ型サイトのサポートも行う。システム開発サービスでは顧客ニーズに最適なサービスを提供する。その一方で、技術力を具現化した自社製品を製造しブランド化を目指す。

自社製品「ポジモ」のブランディングを目的に、販売促進ツールを整備し拡販を目指す

画期的な製品を製造するも知名度が不足

これまで蓄積してきた高い技術力を活かして新規事業として自社製品やサービスの開発・販売に取り組んできた株式会社ネクステック。中でも2013年春に発売した新規自社製品「ポジモ」は屋外に設置する無線LANアクセスポイントを持つ中継機。太陽光パネルとバッテリーを取り付けているため、電源を自給して稼働することができる。重さは約15kg。持ち運びもできるこれまでになかった製品だ。市街地から離れた景勝地や農業・土木現場、被災地や野外イベント会場などで使われている。利用者からは高い評価をもらってはいるものの、圧倒的に地名度が不足しているためか、効果的なマーケティング活動ができていないといった課題があった。そこで補助金を活用し、ブランディングの一環としてポジモの新しいロゴタイプを制作。製品紹介の動画も制作。ユーザーインタビューを主体にした導入事例集を整備することにした。

製品理解に一定の効果が

ロゴタイプに関しては、製品の信頼感を表現することを目的に、製品形態にあわせた四角い図案をベースに制作をすすめた。製品紹介の動画は約5分。カタログや資料といった紙ではなかなか伝えづかった部分を映像とイラスト、ナレーションで効果的に伝えるよう配慮した。この動画は展示会場で上映したほか、YouTubeにもアップし、いつでもどこ

からでも視聴できるようにしてある。これまでの視聴回数は700回を越え、製品理解に役立ち見積もり依頼につながっているという。事例集は、イベント・観光地・建設現場・農業・災害対策の5事例をメールなどで顧客にヒアリングを行って仕上げた。

特に動画に関しては、海外での展示会「ITU Telecom World 2016」のブースでも放映し、「Recognition of Excellence」の受賞にも貢献した。世界中にポジモをアピールすることができるのも、動画の効果だと実感した。制作においては最適なものと、慎重に進めたが、完成したものを改めて見てみるといろいろな意見があったり反省もあったという。しかし、今回のマーケティングツールの整備を通して、販売増につなげていきたい考えだ。

未踏領域製品を世界の販路へ

「ポジモ」は電力の無い場所に必要に応じて無線通信を構築する製品です。世界的にみると、電力整備の遅れに伴い通信網が行き渡っていない地域があり、産業や教育の発展を妨げることになっています。こういった世界的な通信事情も勘案し、ビジュアルによるブランディングを通して「ポジモ」の需要を喚起していきます。



製品事業部長
伝法 毅

冬季間でも稼働する「ポジモ」



室蘭市の地球岬で設置されている例



屋外の移動Wi-Fiスポットとして活躍する



イベント時や災害時でも外国人対応にも



平成29年度 テレワーク普及促進事業

1 目的

在宅勤務をはじめとする多様な勤務形態の実現に向けた職場環境の整備に必要な取組を行う中小企業等に対し、その取組に係る経費を補助することにより、中小企業等の職場環境の改善を図ることで女性をはじめとする市民の有業率の向上や市民のワーク・ライフ・バランスの向上に寄与することを目的としています。

2 補助対象者

・市内で事業を営む中小企業等(NPO法人、士業法人等を含みます。)

3 補助対象事業

- ・補助対象者が実施する在宅勤務、モバイル勤務等を可能とする情報通信機器等の導入による多様な勤務形態の実現のための新たな環境整備及び既存環境の拡充を図る取組みが対象です。
- ・在宅勤務にあつては月1日以上、モバイル勤務等にあつては週1日以上取り組むものとします。

4 補助金額

補助対象経費の2/3以内、上限額60万円

5 補助件数

10件

(平成29年度採択案件)

- ・仕事と生活の調和を支援する取組で、社員が働きやすい職場環境を実現(株式会社Hand Made)ほか9件

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 機器購入費 : パソコン、タブレット等の端末、wifiルーター、webカメラなど
- システム構築費 : テレワークシステム(勤怠管理システム、ファイル共有システムなど)
構築に係る費用、関連ソフト利用料(テレワークに必要なアプリケーションなど)
- コンサル委託費 : テレワーク導入支援や就業規則の作成・改定など専門家への相談費・作成手数料など

7 募集期間

平成29年5月22日～12月20日

8 申請の受付・問い合わせ

札幌市経済観光局産業振興部経済企画課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

TEL:011-211-2352 URL:<http://www.city.sapporo.jp/keizai/telework/hojyokin.html>

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社HandMade

テレワークを活用した女性の就業促進

- 所在地／札幌市清田区北野7条4丁目11-20
- TEL／011-888-1122 ●FAX／011-888-1123
- 代表者／代表取締役 浦谷 幸史
- 設立／2002(平成14)年11月 ●従業員数／34名
- URL／http://www.11shokunin.com/

「職人工房」という屋号で札幌圏内において住宅リフォーム数No.1の実績を誇る株式会社HandMade。「ライフスタイルメーカー」をモットーにこれまでの建築業界の慣習や常識を打ち破ってきた。

多くの職人とタイアップし、年間約2,500件を手掛ける。24時間365日対応といった顧客サービスを実現し、社会に必要とされる企業を目指す。

テレワーク環境を整え、柔軟な働き方を実現 全体の作業効率を高める

受注増から作業量も増加へ

「職人工房」の理念は「どんな事柄も投げ出さず、誠実な気持ちで、元気に行動する」だ。小さな水漏れから大きな増改築工事まで、一つひとつ丁寧に丁寧に対応することがモットー。住まいの悩みを丁寧に対応している。その結果、創業以来、右肩上がりで成長してきた。受注件数の高まりとともに仕入れコストを押さえることができ、圧倒的な低価格が顧客の心をつかんでいる。同社への注文は「新聞折込チラシを見て」が9割。独特な手書きPOP風の体裁で目立つチラシは、社内の専属デザイナーが担当。同社のブランドを築いている。

社内の体制は大きく3部門がある。営業と施工と内勤。受注件数が増えると、事務作業も比例するように増加する。内勤者が日々、目先の発注書の入力作業に追われるようになり、中長期的な課題に取り組むことができない状況がつついてきた。そこで、テレワークといった在宅勤務の形態を取り入れ、子育てによる短時間勤務のスタッフを自宅で作業できるように環境整備を整え、全体の業務効率を高めるようにした。

3人のテレワーカーがほぼすべての発注書作成を担う

具体的にはパソコンを3台購入。家庭の事情などで出社して作業することが難しいスタッフの家に設置した。在宅勤務のテレワーカー

たちは、PDF化されたエクセル書類を見ながら発注書類を作成していく。同社では現在、年間約6,000枚の発注書の作成がある。この数のほぼすべてを3人のテレワーカーたちが作業を担っている。その結果、内勤者たちの時間外勤務が減った。テレワーク環境を導入することで、出産子育てによって退職した元社員を再雇用することにもつながった。内勤者の事務作業が軽減されたことにより、チラシを折り込んだ当日に「電話が鳴り止まない」状況に対して、電話を取れなかったという失注も少なくなっている。また、顧客の日々の緊急のトラブルにも迅速に対応することが可能となり、会社全体にいい波及効果がうまれている。

業務効率を高めさらなる顧客満足へ

住宅機器メーカーのリクシルが主催する秋のリフォームコンテストにおいて2年連続、全国でNo.1になることができました。お客様の支持を得ることイコール事務作業量も増えることとなります。クラウドを利用したテレワークシステムをより充実させて、在宅勤務者を増やして、全社としてさらに住宅の悩みを抱える人に対応していければと思っています。



経営企画室長
小園 拓志

事務書類はスキャンしてPDF送信する



内勤者の作業風景



LIXIL社によるコンテストの受賞アワード



テレワークするスタッフの環境



札幌市のその他支援制度(ものづくり関連)

融資制度

問い合わせ先 商業・金融支援課 TEL 011-211-2372

《一般中小企業振興資金》

～通常の運転資金や設備資金、経営安定化を図るなどの目的でご利用できる資金です～

- 産業振興資金(融資限度額:2億円 融資利率:年2.0%以内)
中小企業者等が対象
 - 短期サポート特別枠(融資限度額:5,000万円 融資利率:年1.7%以内)
融資期間1年以内の運転資金を必要とする中小企業者等が対象
- 札幌みらい資金(融資限度額:2億円 融資利率:年1.5%以内)
札幌市経済をけん引する5つの重点分野である「観光」「食」「環境(エネルギー)」「健康福祉・医療」「IT・クリエイティブ」に関連する、又は「女性の活躍推進等」に取り組む中小企業者等が対象
- 小規模事業資金(融資限度額:1,500万円 融資利率:年1.0%以内)
小規模事業者等が対象
- 小口資金(融資限度額:2,000万円 融資利率:年1.3%以内)
信用保証協会の「小口零細企業保証制度」を利用する小規模企業者等が対象
- 景気対策支援資金
(融資限度額:5,000万円 融資利率:5年以内/年1.3%以内 10年以内/年1.5%以内)
信用保証協会の「セーフティネット保証制度」を利用する中小企業者等への融資制度で、札幌市が信用保証料の4分の1を補給
- 経営力強化支援資金(融資限度額:1億円 融資利率:年1.3%以内)
信用保証協会の「経営力強化保証制度」を利用する中小企業者等への融資制度で、札幌市が信用保証料の2分の1を補給

《特別資金》

～創業、新分野・海外への進出、大型の設備投資などの目的でご利用できる資金です～

- 創業・雇用創出支援資金(融資限度額:5,000万円 融資利率:年1.1%以内)
次のいずれかに該当する中小企業者等への融資制度で、札幌市が信用保証料の4分の1を補給
 - (1) 市内で創業する者及び創業後5年未満の者
 - (2) 融資申請日前6か月以内に、新たに常用従業員を1名以上雇用した者
- 事業革新支援資金(融資限度額:2億円 融資利率:年1.1%以内)
次のいずれかに該当する中小企業者等が対象
 - (1) 新規性、技術性又は独創性を有する事業に取り組む者
 - (2) 成長の見込まれる新分野への進出を目指す者
 - (3) 商店街の活性化に資する事業に取り組む者
 - (4) 海外への販路拡大及び海外拠点の設置や拡張に取り組む者
 - (5) 事業承継に取り組む者
- 大型設備投資支援資金(融資限度額:5億円 融資利率:年1.1%以内)
札幌圏において設備投資額が5千万円以上の大型の施設等を設置若しくは増改築又は機械設備等の購入を行う中小企業者等が対象

※平成30年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

さっぽろ版事業者評価制度

問い合わせ先

商業・金融支援課

TEL 011-211-2372

●事業者評価書の発行

財務内容などの「定量的な視点」だけでなく、商品・サービスの価値や経営・販売体制などの「定性的な視点」から、企業の成長性や将来性などを評価した評価書を札幌中小企業支援センターが無料で発行

立地支援制度

問い合わせ先

立地促進・ものづくり産業課

TEL 011-211-2362

●札幌圏設備投資促進補助金

札幌市内に「試験・研究・開発施設」「工場」「物流施設」「データセンター」を新設、増設又は市内移転する事業者への補助制度

販路拡大支援制度

(食・バイオ・健康医療)

問い合わせ先

食・健康医療産業担当課

TEL 011-211-2392

●エビデンス取得支援補助金

機能性商品の開発を促進するため、食・バイオ関連企業を対象として、機能性表示食品制度への申請や海外への販路拡大を目的とした機能性の科学的データ(エビデンス)取得経費の一部を補助

●食・バイオ製造品質認証取得補助金

食・バイオ(食品、化粧品等)関連製品の製造・加工に関して、国内又は海外での販路拡大等を目指して、各種の製造品質認証取得に向けて社内体制構築を行う取組に係る経費の一部を補助

●サッポロ・ヘルスケアビジネス・サポートプログラム2018

ヘルスケアビジネスにおいて、市場ニーズを獲得し、事業の創出・成長を図ろうとする取組に対し、①ハンズオン(併走型)支援、②専門家相談支援、③市場ニーズ獲得支援と経費の一部を補助

●展示商談会・学会等参加支援

医療分野への参入、事業展開を検討するIT・ものづくり企業などを対象に、医療関連分野の展示商談会・学会への参加を支援 ※支援内容は出展先によって異なります。

研究開発支援制度

問い合わせ先

食・健康医療産業担当課

TEL 011-211-2392

●事業化支援補助金(札幌ライフサイエンス産業活性化事業)

「健康・医療分野」における産学共同研究に係る経費を補助

●研究シーズ発掘補助金(札幌タレント補助金)

「健康・医療分野」において、札幌圏の大学・研究機関等(民間含む)に所属する40歳以下の若手研究者が取り組む基礎的・先導的な研究に係る経費を補助

道内機関の支援制度も知りたい方は

●支援制度ナビ【公益財団法人北海道中小企業総合支援センター】

北海道内の企業・創業者向けの支援制度を紹介する情報検索システム

(URL: <http://www.hsc.or.jp/shiennavi/>)

発 行

札幌市経済観光局産業振興部
立地促進・ものづくり産業課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎15階

TEL 011-211-2362 FAX 011-218-5130



さっぽろ市
01-H01-18-102
30-1-25